

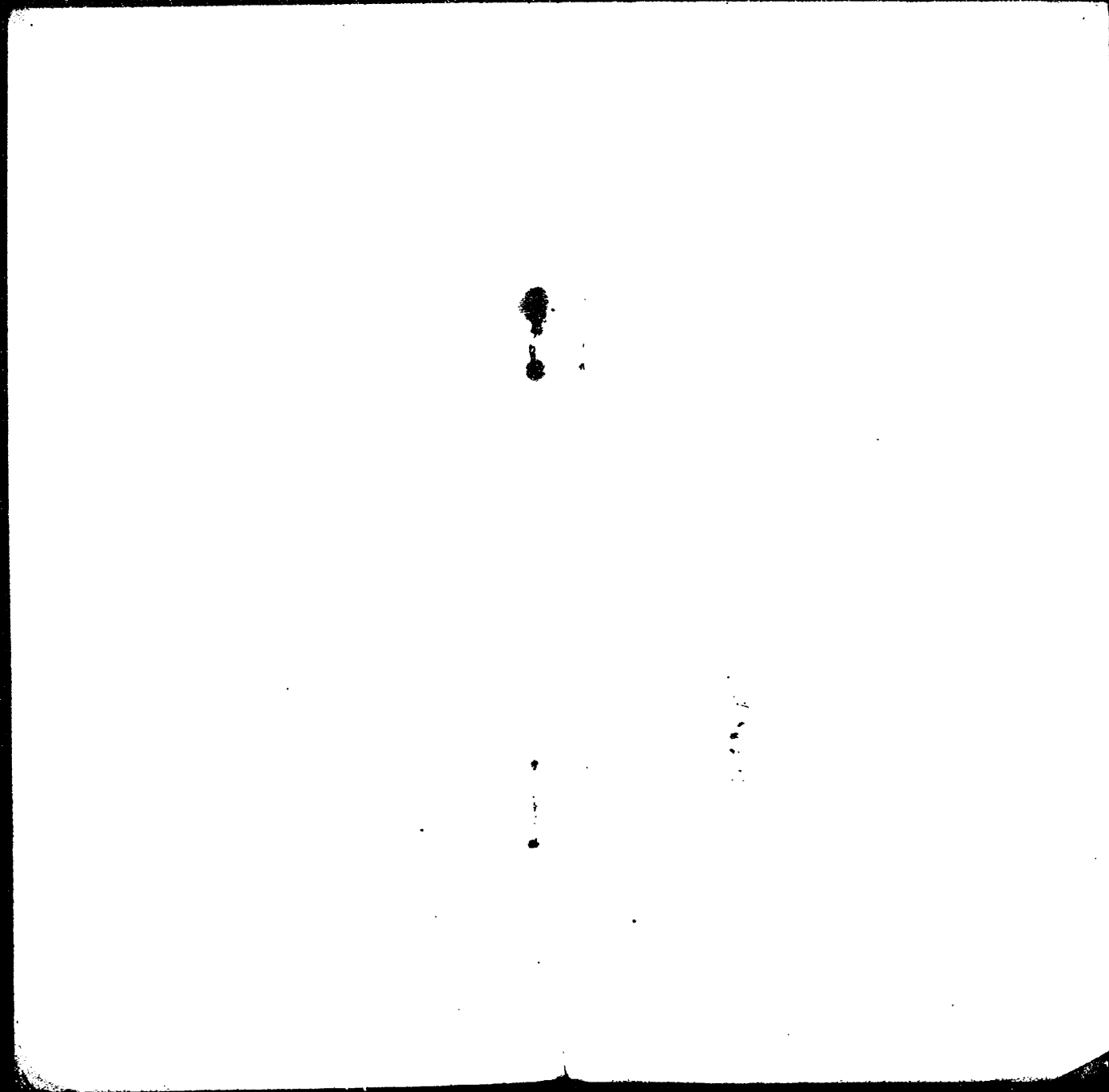
昭和五年

樺太概要

庫文閣内			
函	五 四 七 一 七	和 書	架 冊 號 類

樺太廳





292  
547174  
44

昭和五年

樺太概要

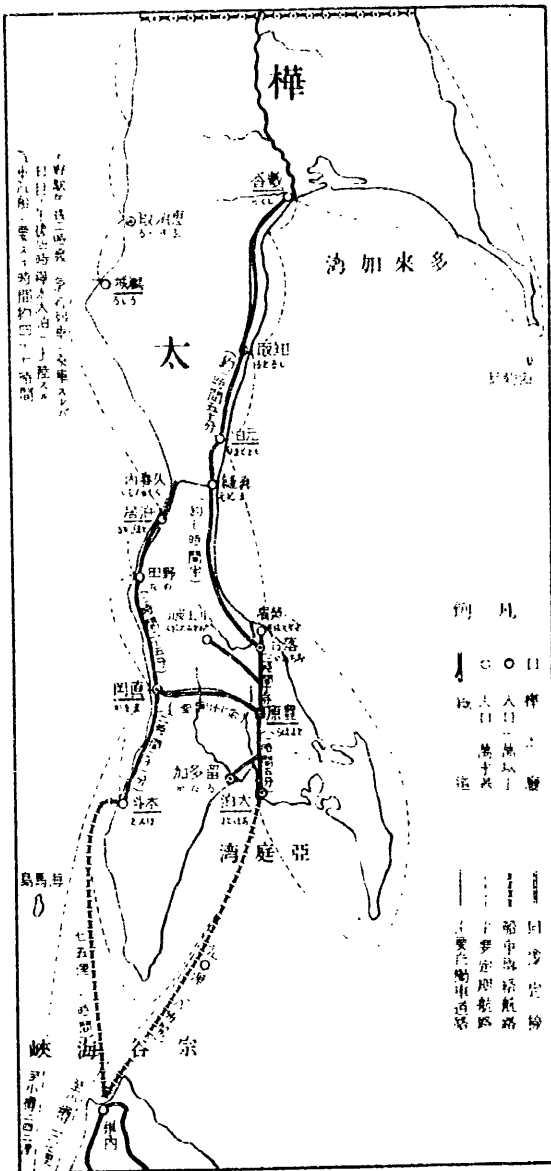
樺太廳

目次	頁數
一	八
二	五
三	六
四	〇
五	二
六	一
七	一
八	六

概要正誤表

行數	誤	正
一	租織	租織
二	永點以上	永點以上
三	劇降	激降
四	利價	利益價值
五	着食なる	着食なる
六	避署地	避暑地
七	内容も漸く	内容も漸く
八	百花撩亂	百花撩亂
九	借地	借地

樺太略圖



樺太線  
樺太道  
樺太航路

- 凡例
- 樺太線
  - 樺太道
  - 樺太航路
  - 樺太支線
  - 樺太支道
  - 樺太支航路
  - 樺太支支線
  - 樺太支支道
  - 樺太支支航路

釋太概要目次

第一地勢	二頁
位置及面積—地勢	
第二氣象	四
氣溫—溫度—降水量—霜雪—風	
第三戶口	六
第四行政	八
組織及歲計—自治制度	
第五產業	一四
農業—牧畜業—礦業—水產業—林業	
目次	一

目次

二

第六 商 業……………三  
 商業—貿易—金融

第七 教 育……………三五  
 初等教育—中等教育—教員養成

第八 交 通……………三六  
 道路—鐵道—軌路

第九 警 察……………四一  
 警察機關—醫事衛生

第十 土 人……………四三  
 生活狀態—教育

附錄—樺太視察便覽

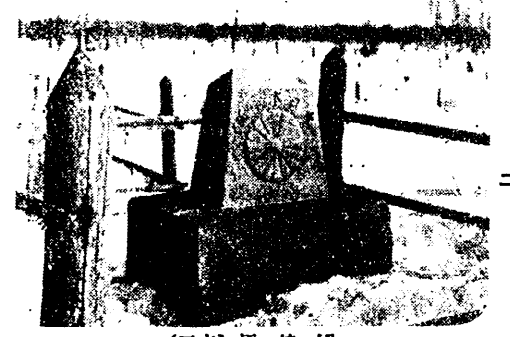


樺 太 視 察 便 覽



權本  
第一  
地勢概要

【位置及面積】本島はオホツク海と日本海との間に介在して西は間宮海峡を隔て、沿海外に對してゐる。最南端西能登呂岬は北緯四十五度五十四分であり、宗谷海峡を隔て、北海道宗谷岬と相対してゐる。北は北緯五十度を以て露領樺太と境し、延長百十六里余、幅員は最短七里、最長四十里である。其面積は約二千三百三十九方里で帝國の總面積四萬四千三百三十八方里中其五分三厘を占め九州よりは小さく臺灣よりは稍大きい。北海道に比較すれば、約其二分の一に當り朝鮮の約六分の一であ



(面南) 標 境 國



(面北) 標 境 國

る。尙之を列國の面積に比較すれば瑞西(二、六七八方里)と和蘭(二、二一四方里)との中間にある。

總數	面積	百分比例
南樺太	四四、一三八方里	一〇〇・〇
臺灣	二、三三九	五・三
北海道	二、三三二	五・三
朝鮮	五、〇八四	一一・五
内地府縣	一四、三一一	三二・四
	二〇、〇七〇	四五・五

【地勢】本島は地貌及地質によりて之を東部山地帯、中央低地帯及西部山地帯の三地帯に區別する。即ち東西の兩山脈は南北に並行し、其中間は平低で凹字形なにつてゐる。

焼内、内河、鈴谷、留多加の諸川は其間を緩流してゐる。沿岸は概して海岸線の屈曲に乏しく、西海岸は殆ど子午線に並行して頗る單調であるが、南端は魚尾の形態をなして屈曲に富み、中知床岬と西能登呂岬とは東西の尾端となつて亞陸灣を抱いてゐる。

### 第二 氣象

【氣温】 月平均氣温の氷點以上にあるのは四月から十月までの七ヶ月で、最寒は一月、最暖は八月となつてゐる。温度の急昇するのは融雪期で、其の劇降するのは降雪初期である。

各地を通じて、冬季は其の差甚だしく夏季は之に反してゐる。又内部地方は海岸地方に比較して冬季は寒冷、夏季は高温である。西海岸は同緯度にある東海岸に比較すれば、孰れの季節を問はず比較的高温で、本島は大泊に比較して平均一度餘高く、安別は釧路に比し一度餘高い。之は暖流の影響を受ける爲である。

【湿度】 本島は海霧の發生多い爲に湿度は一般に高く、西海岸南部を除いては年平均八十パーセントに達してゐる。然し春秋兩季には最も能く乾燥し三十パーセントに降ることが珍しくない。總じて本島は對比

湿度が甚だ高く概ね濕り勝ちであるけれども、絶対湿度は甚だ低い爲に殊に乾燥し易く、一日中の變化に就いて觀るも其の差は平均二十パーセント内外に上つてゐる。

【降水量】 降水量は一般に夏秋に多く冬春に少い。月量に於て多くて二百五十耗であるし、少いときは十耗に充たない。内部は沿岸地に比較して多いけれども尙年九百耗で、本邦中最霖雨の地として南滿洲の次ぎになつてゐる。

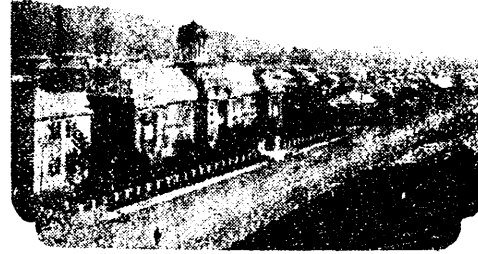
【霜雪】 結霜は九月中旬内部に始まつて十月初旬には全島に亘り、五月下旬には終を告げる。雪は北部に早くて概ね十月中旬に降り初め、平地の初雪は十月下旬である。各地とも十一月下旬乃至十二月の初旬には既に根雪となる。融雪は普通西部は四月上旬、内部及北東部は同月下旬になつてゐる。

【風】 平均風向は各地皆風靡を有して一定してゐないけれども、概括すれば四月乃至九月の六箇月は南風で、其の他の六箇月は北風となり、其の北風から南風に變はる期節は各地とも一様であるが、南風から北風に轉する季節は各地多少の遅速がある。之を東北の風向について見るに、西海岸西部では南北風共に東に偏し、東海岸北部では東偏三箇月西偏九箇月である。内部は年中孰れの月を問はず西に偏して、五月乃至七月





戸口



豊原市街

の三箇月は北風であるが其の他の九箇月は南風である。平均風速度は西海岸南部は最も速く、内部は遅い。沿海地は秋冬の候は速く夏季は遅いが、内部は春季が速く冬季は遅い。

第三 戸口

本島の現住人口は其の大部分は内地人であつて極めて少數の朝鮮、土人、外國人がゐる。昭和四年末現在の人口は二十五萬千三百三十八で、領有當初明治三十九年末の人口一萬二千三百六十一人に比較すれば實に約二十倍に達し、他に其の例を見ることが出来ない増加率を示してゐる。

(種族別戸口(昭和四年末現在))

六

戸口



大泊市街

種別	戸数	人口
内地人	四九,九五七	二四四,九三一
朝鮮人	八四三	四,一九三
アイヌ	三四四	一,四八四
ニクソン	二一	一〇八
オロッコ	四五	二八二
キリリン	六	四七
支那人	三八	一〇七
露人	三一	一一一
獨逸人	一	一
波蘭人	九	二二

七



眞岡市街

土耳其	四	一四
計	五一、二九九	二五一、三一三

主要都市人口 昭和四年末現在

豊原町	二五、九八七	泊居町	九、〇五七
落合町	一三、二七〇	恵須取町	一六、四四一
大泊町	二九、九六八	元泊村	四、五三九
留多加町	一〇、五四六	知取町	一六、四二六
眞岡町	一四、五三一	敷香村	八、三〇二
本斗町	九、〇九五		

第四行政

【組織及成計】 樟太の中央官廳は樟太廳で、長官は拓務大臣の指揮監督を受け部内の行政事務を管理する。樟太廳長官の権限は、内地の府縣知事の有する其の外、鑛務、林務、稅務、鐵道、郵便等に及んでゐる。

樟太廳の組織は之を長官々房、内務部、農林部及警察部に分けて、各部に部長を置き事務を分掌せしめてゐる。尙七支廳、二出張所、九林務署、醫院、郵便局、觀測所、中央試驗所、鐵道事務所、警察署等の機關がある。長官々房は秘書課、文書課、調査課、内務部は地方課、學務課、水産課、土木課、財務課、會計課、鑛務課、選信課、及水産物検査所、度量衡所、農林部は殖民課、林務課、林業課、警察部は警務課、保安課、高等警察課、特別高等警察課及警察官練習所に分れてゐる。

次に昭和五年度に於ける樟太廳歳入豫算額を見るに、三千六十七萬五千五百五十三圓で内租稅は二百三十二萬六百七十四圓である。

一、地稅 九、二二〇圓 此課率は二級に分け一級は地價の千分の五、二級は千分の三を賦課す。

一、所得稅 六三八、七二九圓 樟太所得稅令に依り賦課す、其課率は第一種、第二種は内地と同いで第三種は内地稅率より低率である。

行政

行政

- 一、營業收益稅 四三七、八五二圓 營業收益又は資本を標準として賦課する。
- 一、酒造稅 九一三、六九二圓 酒精分を標準として造石高に賦課するもので内地より低率である。
- 一、出港稅 一、四六一圓 樟太に於て製造した酒類を内地へ移出するときは内地稅法と同一率に依り出港稅として賦課す。
- 一、消費稅 五〇圓
- 一、鹽業稅 一二八、五〇八圓
- 一、漁業稅 一九一、一六三圓 從來漁業料として稅外收入に屬してゐたが、大正十二年より租稅に改め漁業權及漁獲高につき賦課す。
- 租稅外收入
  - 一、官業及官有財產收入 二一、六八八、五四八圓
  - イ、郵便電信及電話收入 二、一八五、〇四四圓
  - ロ、鐵道收入 六、五九三、八六八圓

- ハ、醫院收入 二五〇、四五二圓
- ニ、中央試驗所收入 九〇、三七三圓
- ホ、森林收入 一二、四一六、一六三圓
- ヘ、官有物貨下料 一五二、六四八圓
- 一、印紙收入 二八八、五三〇圓
- 一、領事專賣基金受入 一、五八〇、五一二圓
- 樟太に於る專賣基金を一般會計より繰入れらるるもの。
- 一、雜收入 四一五、三〇五圓
- 一、官有物拂下代 二四八、二〇四圓
- 一、返納金 二〇〇四圓 定期及据置貸金の返納
- 一、公債金 一、〇五五、三〇圓
- 一、補充金 一、六〇〇、〇〇〇圓

行 政

一二

一、前年度剰余繰入	二、五三一、七七六圓
昭和五年歳出豫算額は三〇、六七五、五五三圓である。	
一、樟太神社費	一三、〇〇〇圓 樟太神社に對する交付金
一、樟太廳費	一、六三〇、六二三圓 本廳支廳に於ける經常費
一、教育費	二、一八八、九〇六圓 中學校女學校の總經理及小學教員の俸給及旅費
一、警務費	八六六、一五六圓
一、林務費	三、七〇四、八一四圓
一、現業費	九、一一四、三八六圓 逓信費、鐵道費、農事試驗費、水産試驗費、醫院費、
一、中央試驗所費	五五〇、九二四圓
一、諸支出金	二三〇、八五六圓
一、公債及借入金諸費	一、六七五〇二圓 公債利子及之に伴隨雜費
一、豫備金	一八〇、〇〇〇圓 第一豫備金、第二豫備金

一、土木管轄並に拓殖費

三、九四三、九三四圓

一、補助費

二、七七一、一〇〇圓

一、鐵道費

二、四九九、二五九圓

一、鐵道改良費

五四八、五二九圓

一、道路改良費

四一九、〇〇〇圓

一、國勢調査費

一〇九、二三九圓

事業に従事する職員の俸給並に事務費、拓殖費は移民に對する經費森林經營及勸業又は補助費

【自治制度】樟太は領有の當初から、移民は集團して部落を形成し部落民會或は町民會なる團體を作り評議員を選出して部落に於る共同生活上必要な諸般の事項を審議して之を執行して來た。明治四十二年廳令で比較的發達した部落には部落總代を置く制度を布き、更に取扱事項を制定し次第に自治の向上を圖つた。以來十數年移民逐年増加し部落の團體制度が益々確立して來たので、大正十年四月法律第四十七號を以て樟太の地方制度に關する件公布され、次で大正十一年一月勅令第二十三號の公布を見、同年四月一日から地方制度が施行されるに至つた。本制度は決議機關である所の町村會に代るに諮問機關たる町村評議會を以て

行 政

一三

せられること、執行機關たる町村長及其補助者なる助役収入役を官選とした點は府縣の夫に比し趣を異にして居るけれども、土地の状況や人文發達の程度を考へ事情に依り得ざるに用いたものである。本制度は比較的發達した町村から施行し大正十二年四月には全管内に施行されたのであるが、之を現行制度に比し制度の劃一的なると町村長は官の任命であつて、其の諮問機關である町村評議會は官選の評議員に依つて組織せられる等が重なる差異であるが實際の運用に於ては住民の政治的自覺と多年郷土に於ける自治的經驗とに依り良好な成績を示したから、之の改正に着手した。即昭和四年三月法律第二號を以て樺太町村制、同年六月勅令第九十五號を以て同施行令の公布を見、同年七月一日より實施せられ、本島に於ける町村自治の制度茲に完備するに至つたのである。

昭和五年四月現在に於ては十六郡十町三十村に區劃されてゐる。

### 第五 産 業

【農業】本島開拓の行程は露領時代には見るべき成績を擧げることが出来ず無盡の賣庫は空しく刑罰の中

に置かれてあつた。然るに明治三十八年我領有となるや開拓の基礎が創めて確立されて、爾來二十有餘年の間各種産業の發達と共に農事諸般の施設經營も着々其の緒に就いて農業者戸口著しく増加し昭和三年には一萬六百七戸、四萬八千七百六十八人となり、農産物生産額は四百二十一萬圓に達してゐる。然れども耕地反別は僅かに二萬七千餘町歩で、農牧適地四十餘萬町歩に比すれば其の六分にも足らず、尙裕に數萬の農民を收容する餘地を存してゐるので、本島農業の發展は寧ろ今後の經營に依つところが多い。本島は北緯四十五度以北に位するを以て内地北海道に比較して概ね低温であるけれども、栽培せらるゝ作物の種類には大なる差がない。而も從來栽培不可能とされてゐた水稻さへも今では生産の曙光を認むるに至つた。



(一ノ其) 拓開地農産

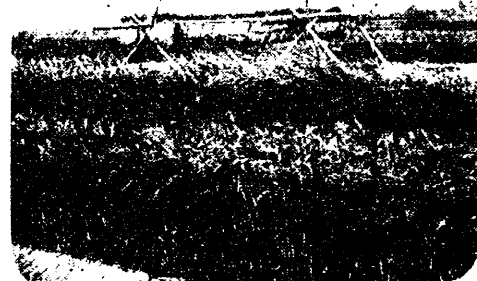
産 業

食糧作物中到る所栽培されてゐるのは麥類、豆類、馬鈴薯、根菜類、葉菜類の各種で麥類中最も多く栽培せらるゝものは燕麥である。大小麥も能く本島の風上に適して生育良好であるけれども販路の關係等によつて年々減少の傾向を示してゐるので之が栽培を促して食糧の自給を期すると共に一面副業の發展を圖らむが爲、製粉精麥事業を奨励してゐる。豆類中豌豆は最も廣く栽培されて、大豆、大小豆、蠶豆等が之に次いでゐる。穀類としては以上の外、蕎麥、粟、玉蜀黍等の各種が生産せられるけれども、蕎麥を除いては未だ栽培が普及されてゐないで生産額が頗る少ない。



(二ノ其) 拓開地民窟

産 業



農 作

て自家用として消費されてゐるけれども、澱粉製造及販賣用として其の儘市場に搬出せらるゝものも少くない。甘藷は本島の氣候に適してゐるので一箇三貫目以上の優良品を生産する事が珍らしくない。以上の外、蘿蔔、牛蒡、胡瓜、茄子、南瓜等の蔬菜類が生産せられるけれども廣く栽培されるのは市街地附近で其の他の地方は自家用を充たす程度に過ぎない。工藝作物中本島に適するものはライ麥、亞麻、甜菜、薄荷あるけれども現在利用せられてゐるものはライ麥、亞麻の二種である。亞麻は本島に最も好適した作物であるので廠では優良種子を無償配付して之が栽培を奨励すると共に、製絲工場にも相

當補助を與へて農家より原産を一定價格以上に購入せしめてゐる  
而してライ麥は農家は大泊製菓會社と一定の契約のもとに之を栽  
培して酒精原料として該會社に販賣してゐる。

以上の外將來有望な作物は甜菜である。  
中央試験所の試験成績を見るに含糖率は十八乃至二十パーセン  
ト、純糖率は八十五乃至九十五パーセントで遂に北海道品、朝鮮  
品を凌駕してゐる。

飼料作物としては燕麥、牧草、根菜類、デントコーン等があつ  
て何れも生育良好であるけれども、就中燕麥、チモシー、瑞典燕  
麥、家畜ビートは品質優良で他の追従を許さない有様である。

果樹として一般的に栽培せられて居るものはないが將來有望な  
のは苹果である。苹果は現在西海岸の中央試験所宇遠泊支所及同



農 産 物

地方に於ける二三の有志によつて栽培せられてゐるが其の成績は  
甚だ良好である。

〔牧畜業〕 農家の生計を安定して拓殖の進展を企圖せんとする  
には今後益々土地の利用を集約的ならしめ所謂有畜農業の奨励に  
よつてのみ其の目的を達成得しられるので之が遂行に關しては極  
力保護奨励を加へてゐる。本島の家畜は主として牛、馬、豚、鶏  
等で其の他少數の綿羊、家兎、水禽類が飼養されてゐる。之等畜  
産の昭和三年末現在に於ける生産額は百三十九萬七千六百八十七  
圓で農産物生産額の約三分の一に相當してゐる。

樺太産馬の基礎となつてゐる馬匹を大別すれば在來種及領有後  
内地から移入せるものとの二である。在來種は體格少く粗食に耐  
ふるも負擔力及挽曳力が少く能力は概ね低劣である。領有後種に



於て移入の上農民に貸付けた牝馬や補助金を支給して移入せしめたる牝馬は北海道産及岩手産で、主に「トロッター」「ハックニー」「ノルマン」等の雑種である。移入當初は冬期間の飼養管理に周到の注意を要するも數年を経ずして馴化する。在來種に比較して體が大きく性質温順、能力も優れてゐる。

本島産牛の基礎となつてゐるものは、在來種及樺太領有後北海道から移入されたものとの二種に大別する。在來種は體格一般に矮少で頭角は朝鮮牛に似たるもの多く寒氣に堪ゆるも劣等種で乳量一箇年平均二石乃至三石に過ぎず四石を泌乳するものは稀である。領有後北海道から移入せるものは主に「エアシャー」種及其他の雑種である。本島産牛の九割以上は「エアシャー」種であるが、近時「ホルスタイン」種が著しく増加して來た、近い將來には「エアシャー」種を没するであらう。

在來豚の残存せるものは極めて少ないので何種に屬するか不明である。領有後北海道から移入して貸付けたものは「パークシャー」種、「チエスターホワイ」種との雑種であるが今はその血統に屬するものが殆どない。其の後民間に於て移入せられたものは「パークシャー」種及「ヨークシャー」種で前者は六、七割を占め、後者は三、四割を占めてゐる。應に於ては之等二種を奨励品種となし試験場では種畜の配布をしてゐる。



養兔場

露助鶏と稱する在來種は體は一般に矮少で體量僅に三百乃至五百匁で其の産卵數は一箇年五十乃至八十個である。然れども之等在來種は漸次其の數を減じつゝあり近き將來には絶滅する状態にある。領有後内地及北海道から移入せられたる鶏種は「レグホン」種が最も多く、「ミノルカ」種「アングルシャ」種「オーピントン」種其の他數種あるが、「草冠白色」「レグホン」種並に横斑「プリマスロック」種を奨励品種としてゐる。

養狐事業は大正四年鹿種畜場に於て飼養試験をしたのが其の始めで、爾來島内各地に之が飼養者漸次増加し近時堅實味を帯びて來た。最近中央試験所では互額の費用を投じカナダから銀黒狐種を取寄せ目下試験中である。

【養業】本島に於ける礦物は石炭を主として石油は之に次ぐ。





大 榮 炭 礦

其の他砂金、含銅硫化鐵礦及辰砂礦等が存在してゐるけれども未だ重要な礦床が見られない。

炭田の主要なるものは南部、中部、北部の三大炭田、恵須取炭田、西檜丹炭田及東海岸炭田で第三紀層の下部及上部が發達し含炭層は概ね南北に走り單斜又は向斜をなしてゐる。含炭層は普通二千尺内外に及んでゐる。此等炭層の露頭は概ね南北に延びて二十里乃至三十里に亘り蜿蜒として連續してゐる。本島推定埋藏量約十一億九百二十萬噸の内、水準上一億七千四百四十萬噸水準下(二千尺迄)九億三千七百八十萬噸である。本島の石炭は其の性状に依り之を略左の三種に分けてゐる。

第一種は粘結性強く發熱量大なるもの、第二種は粘結性微弱又は粘結性で揮發分の多いもの、第三種は粘結性で發熱量少

へ水分多いものである。而して第一種は嶺津炭田及幌岸地方のものが之に屬し、第二種は封鎖區域中の南部炭田の奥部及中部炭田の全部並に恵須取地方のものが之に屬し、第三は南部炭田に屬する吐鯤保炭田を主とし北部炭田及知取、登帆、東白浦等の東海岸炭田並に野田、皆別地方に於ける上部含炭層のものが總て之に屬してゐる。

石油は明治四十年樺太總て嶺山調査をした際、始めて南部西海岸地方にて發見され、其の後本斗町附近、小龍登呂、唐沸、野田以北亞牛、越内、知來、名寄及中央凹地帯、圓山、河南地方の諸處に確實なる含油層の布延が認められた。爾來地質構造の關係も又漸く明瞭になり有望視されるに至つた。該含油層は本島第三紀層の上部岩層に廣く介在してゐる様子である。含油層は石炭層と共に斷續し南は十和田、呂馬内附近から始つて海岸に沿ふて北に走り、南名好、吐鯤保を過ぎ遠く本斗町に來て海底に入つてゐる。石油を含有する油砂は柔軟な青色砂岩或は黄色を帯びてゐる白石瀝灰質砂岩で、數等の薄層をなし普通厚さは約二百尺位から四百尺までの砂岩及頁岩の累層中に介在してゐる。

【水産業】樺太に産する水産物の主なるものは鱈、鮭、鱒、鰻、鱈、鮫、蟹、海鼠、帆立貝、北寄貝

産 業

鯉、鰻、鰒及昆布等で其の年額は二千五十五萬圓に達し、主として鯉、鰒及鮭の定置漁業者並に四千戸の定住漁業者に依つて採捕處理されてゐる定置漁業者の使用する漁船は凡そ千六百隻内外で定住漁業者に依つて使用されてゐる漁船が凡そ一萬餘隻に達してゐる。

鯉漁業は其の産額漁業中の首位を占め年額千四百七十萬圓以上に達してゐる。東海岸の國境から北知床岬に至る間及中知床岬より愛知岬に至る間を除くの外は到る所に漁獲されてゐるが、就中近時最も多く漁獲されてゐる所は亞庭灣内に沿へる大泊、長濱間で、領有當初は最も優秀な漁場であつた西海岸は漸次減少して昔日の觀がない。

鯉製品の主なるものは押粕であるが、近時身軀製並に鮭の製品



大 鮭

二四

が次第に其の数を増加して、品質も改良に當て用ゐられてゐる。亦近時燻製鯉の製造に従事するものもあるが其の産額は未だ少ない。

鱒漁業は鯉漁業に次ぐ重要漁業で、其の漁業區は東海岸各地で就中幌内川を中心として多摩加、新間間及内淵川を中心とする元泊、南宮内に至る間である。

此の外は亞庭灣に在つては中知床岬、留多加川を中心とする附近の漁場及西海岸に於ては内幌、樂南附近の漁場及來知志川口附近の漁場は比較的優秀である。

鱒製品及生賣額は年額約百二十二萬圓である。

鮭は夏期と秋期との二期に漁獲されるが前者を夏鮭又は時シラズと稱し後者を秋アヂといふ。鮭は其の分布區域が狭く豊凶の差が少い。夏鮭は東海岸敷香附近が主で、一漁場の漁獲高六萬貫内外の處もある。秋鮭は西海岸南部地方の多泊間、麻内、阿幸及名好川附近並に東海岸は内淵川附近の漁場に多く産し或漁場では三萬貫以上も漁獲する。

鮭の大部分は鮮魚に造られ其の一部は生賣されて罐詰原料に供せられてゐる。近時鮭燻製品の製造を企圖

産 業

二五

するものもあるが其の産額は甚だ少ない。  
 鱈は全身沖合一帯に棲息してゐるが主産地としては西海岸の野田方面から南方式意泊に至る間で夏期三箇月を除くの外該漁業に従事してゐる。同地方に於ける盛漁期は所謂春漁季節、即ち二月から六月に至る時期で、此の時期に於ける漁獲高は川崎船一隻で三萬尾乃至四萬尾、發動機漁船一隻で五萬尾乃至十萬尾の多量に及んでゐる。十月から翌年一月に至る秋冬漁は出漁日数等の關係で漁獲高は春漁の半にも達してゐない。鱈は主に棒鱈に製するが溫暖なる時期には押箱や開鱈につくる。其の他晩秋に於ける鱈の一部は鹽鱈として移用されてゐるが、鱈の副産物である鱈肝油は主に肝油製造業者によつて製造され主要なる鱈漁業地には其の工場が建設されてゐる。製品は工業油及薬用肝油の二種で其の産額は例年を通じて二萬函を超え金額に於て約五十萬圓となつてゐる。  
 鱈の最も多く捕獲せらるゝものは「たらばかに」で全局到る所に棲息してゐるが、就中西海岸及亞庭灣口附近に多く産し専ら刺網を使用して漁してゐる。  
 明治四十一年以降鱈製造業勃興して鱈捕獲が盛になつたので之が盛獲の弊を慮れ、蕃殖保護の爲一般に

鱈及背甲五寸以下の稚鱈の捕獲を禁止し且一定の禁漁期を設くる等力めて漁利の維持を圖つて來た。鱈の大部分は罐詰に製造される。鱈罐詰は大正六年には其の産額十二萬函價格三百餘萬圓に上つたが鱈捕獲高次第に減少し最近では年産額百萬圓にも達しない状況である。販賣は主として米國であるが近時歐洲各國特に英國其他南洋方面へ其の販路を擴張してゐる。  
 昆布の分布は頗る廣く全沿岸殆ど産しない所がないが、主なる産地は西海岸及亞庭灣である。昭和四年に於ける産額は約六十四萬圓に上つてゐる。

海豹島は我國唯一の鰻鮎蕃殖地である。明治三十八年樺太の我が領有に歸するや直ちに獲獲を禁止し、明治三十九年から毎年監視を駐在せしめて専ら鰻鮎蕃殖保護及調査に従事せしめた



(一) 海 豹 島

大正元年から之が獲獲を開始したが年々五百五十頭を標準とし獲獲を繼續して来た。然るに大正三年以來上  
 獵頭數減少の傾向があるので大正五年及六年には獲獲を中止した。大正七年からは其の狀態舊に復したので  
 再び獲獲を開始し其の後毎年五百五十頭を獲獲して来たが、大正十二年から審判に關係ない老犬獸の獲獲を  
 も開始したため、同年は八百二十四頭、大正十三年には九百四十二頭、大正十四年には八百六十八頭、大正  
 十五年には一千三百二十二頭を、昭和二年には一千六百八頭を昭和三年には一千五百三十頭を、昭和四年に  
 は一千七百五頭を獲獲した。獲獲の一割は條約に基いて英米露の各國へ分配することになつてゐる。

【林業】 本島の森林は斧鉞の入らない自然林で老壯の綠樹が天然の雜樹林内に密生して後繼森林の素地を  
 造つてゐる。其の面積實に二百餘萬町歩で總面積の三分の二を占めてゐる。林種としては針葉樹林が最も多  
 く闊葉樹林や針葉混樹林は之れに置いてゐる。而して樹種は約百二十二種で其の内喬木は四十九種、灌木は七  
 十三種に分類されてゐるが實際利 價値ある林木はエゾマツ、トドマツ、グイマツ、イチキ、シラカバ、ド  
 ロヤナギ、ハンノキ及タモ等之等林木の分布は殆んど一定してゐる。即ち河岸の底地にはヤナギ、ハンノ  
 キ及タモ等簇生してゐるが山岳にはトドマツ、エゾマツ等針葉樹が密生し山岳中腹には白樺を混生



(二) 島 約 海

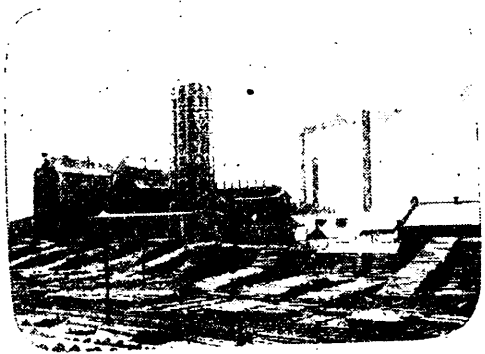
し頂上に近づくに従つて白樺の混合歩合を増し遂に白樺の純  
 林となつてゐる。グイマツは主に低濕地に生じて居るが此等  
 樹種中最も多いのはトドマツ及エゾマツで約八割を占めてゐ  
 る。

國有林面積及蓄積の調査は一先づ終了したが其の成績に依  
 れば邦領樺太の森林原野面積は二百五十四萬六千九百三十三町歩  
 で、其の材積は葉生木は六億二百八萬石、同齡木は五千  
 百八十六萬石、闊葉樹は八千三百三十九萬石で其外にツンド  
 ラ地帯二十四萬一千百十町歩に達してゐる。昭和元年度より  
 三箇年の計畫を以て林地界を明かにする爲林地區分調査を施  
 行し同三年度を以て完了した。四年度よりは更に五ヶ年計畫  
 を以て全管内既住施業接調査箇所の檢訂を施行し將來の施業

産 業

計畫を確立せんとするの外新に設置さるべき全島町村に對する基本財産林の豫定地を調査し、併せて施業方法を確立せんとする方針である。

森林は本島主要富源の一で之れが利用の如何は本島産業に直接影響するので種々調査の結果、製紙原料たるパルプに適切なものを認め且つ國産の自給自足を圖る見地から製紙料として利用するのは最も得策であることが解り、爾來此の方針の下に斯業を奨励して來た。その結果漸次隆盛に赴き現在の工場数は豊原大泊、落合、知取、眞岡、野田、泊居及惠須取の八箇所之等工場が消費する養材は年々増加し昭和三年には三百餘萬石、パルプ生産高約十五萬噸に達してゐる。以上の外電柱、杭木建築用材薪炭用材其の他に利用されてゐる。

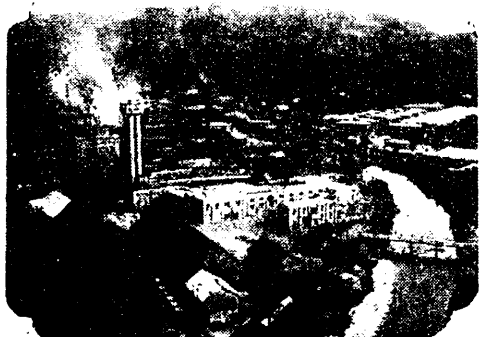


(社會式株式製子王) 場工パルプ原豊

大正八年より大正十二年に亘り松枯<sup>マツカゲ</sup>病<sup>マツカゲ</sup>發成し其の蟲害木は急遽處分する必要上、大正十一年臨時森林作業所官制を發布し、官營に依る蟲害木の斫伐事業を計畫し、大正十一年より事業を開始し昭和元年度に於て大體完了を見るに至つた。然るに昭和二年には森林作業所に改稱し、生木の官行斫伐事業に着手した。昭和五年一月官制改革の結果、森林作業所を廢し、事業の實行は各林務署に於てし、其の企畫並に監督は林業課に於てなすこととなつた。

第 六 商 業

〔商業〕 明治三十八年本島占領後自由通航が許された當時には新領土の通弊として所謂一攫千金を夢みて渡島する商人が頗る多



(社會式株式業工太緯) 場工パル泊

く或は天幕を張り或は小屋掛などして營業する有様であつたが、爾來幾多經濟界の變動に伴つて不健全分子が驅逐されて着々なる商人のみが漸く其の基礎を確立する様になつた。又大泊港及真岡港の開港によつて外國貿易が開始せらるゝや益々商業發展を極むるに至つた。

【貿易】 樺太生活必需品の大部は北海道及府縣から移入し是等各地方に對しては魚類、木材、パルプ等を移出しつゝある。其の商取引は逐年隆盛に赴き昭和三年度に於ては移入額四千九百九十六萬三千二百十六圓移出額は五千五百八十三萬八千七百六圓に達してゐる。

外國貿易は明治四十二年三月大泊港の開港によりて開始せられたが大正十一年二月には真岡港も開始した其の貿易先は最初哈んと朝鮮、支那、露領亞細亞に限られてゐたが、大正八年以降朝鮮貿易は杜絶し、大正十二年から關東州との貿易を見た、大正十四年には英國、米國及獨逸、昭和二年以來西班牙、埃及との取引を見るに至つた。其輸出入品の種類は主として魚類、木材を輸出し食鹽、石炭、鹽鹼魚類等を輸入してゐる。明治四十三年以降大なる進展を見る事が出来なかつたが大正九年の尼港事件後、我軍の駐留によりて急に活況を呈し貿易額にも異常の増加を來し、大正十年に於ては輸出總額實に八十七萬九千八百二十八圓輸入

額四萬四千七百二十五圓合計九十二萬四千五百五十三圓となり貿易開始以來の發展をみた。大正十一年二月には真岡港の開港を見たが金融逼迫の結果貿易總額は五十七萬一千九百九十八圓に減少した。

大正十二年に於ける輸出額は減少して二十四萬四千六百六十三圓となり、輸入額は反對に増加して五十七萬三千七百九十三圓となつた。更に大正十三年には輸出額は五萬三千七百二十一圓に對し、輸入額は四十四萬一千九百九十五圓の多額に達し差引三十八萬七千三百七十四圓、大正十四年には百二十九萬六千七百七十八圓、昭和元年には九十八萬四千三百二圓、昭和二年には七十萬二千四百三十一圓輸入超過を示し、輸出殆んどなく昔日の如き輸出超過の感況を見ることが出来ないが、昭和三年には入超五十三萬九千二百九十四圓で幾分の好況を呈して來た。然るに昭和四年に於ては輸出百三十二萬三千四百七圓に達し輸入は七十一萬九千二百四十五圓を示し、一躍六十萬四千六百六十二圓の輸出超過を見るに至つたのである。

【金融】 明治三十八年十月金庫事務取扱の爲めに株式會社北海道拓殖銀行派出所が設置されて傍ら銀行業務の一部を開始したのが本島金融機關の始めである。爾來經濟界の發展に伴つて斯種機關が漸次増設され、遂に明治四十一年一月泰北銀行が設立されて、樺太に於ける中央銀行事務を取扱はしめ併せて一般金融に資

する所があつた。

然るに明治四十四年拓殖銀行は其の營業區域を樺太に擴張する様になり、大正三年奉天銀行を拓銀に合併して一層業務を擴張し樺太開拓事業に寄與して來た。

續て大正五年十一月株式會社樺太銀行は島内の有力者に依つて設立され専ら拓殖事業に對し資金を供給し兼て一般銀行業務を行ふことになつた。

昭和三年末現在に於ける預金の總額は千百八十五萬百七十七圓で貸付金總額は一千五百七十八萬九百四圓に達した。而して銀行金利は當座預金日歩最高一錢三厘、最低六厘、特別當座預金日歩最高一錢七厘、最低一錢一厘、貸付金日歩最高五錢、最低二錢四厘、荷爲替手形日歩最高四錢五厘、最低三錢五厘、手形割引日歩最高五錢最低二錢である。

次に産業組合の活動は地方開發に直接效果あるを以て大正六年五月産業組合法を施行し、爾來之が設立指導に力めた結果昭和四年末は其の數四十一組合となつた。

### 第七 教 育

【初等教育】 小學校教育は初め、私立小學校、私立小學校の二系統があつたが、其の弊害は甚しかつたので大正九年一齊に之を改め樺太公立小學校に改め、教育制度の改善に關する告諭を發布して教育の方針を示し鋭意教育の改善振興を圖つた。然し輾近拓殖の進展人口の増加に伴つて來たので學校の増設を計り、今では學校の設置してない村落を見ることが出来なくなつた。昭和四年三月現在では尋常高等小學校は六十一尋常小學校は百二十二となつてゐる。

【中等教育】 小學卒業生の増加と共に、中等教育機關の設置が必要となり、明治四十五年四月には大泊に、大正十四年四月には豊原に、昭和二年四月には眞岡に、中學校を設立し、外に大正五年四月には高等女學校を豊原に、昭和二年四月には大泊に、昭和三年四月には眞岡及泊居に設置された。

【教員養成】 小學校が増加したのに未だ小學校教員養成の機關がなく教員は凡て内地の各府縣から招かねばならなかつた。それが爲に大正七年四月樺太廳中學校に小學教員講習所を置いて小學校尋常科准調尋以上

交



豊原中学校

の學力を有するものを收容し、尋常小學校本科正教員の資格者を養成することにしたが、越えて大正十一年四月には之を改正して中等學校卒業者若しくは之と同等以上の學力ありと思むるものを收容して小學校本科正教員を養成して來たが昭和二年四月には更に研究科を増置して小學校本科正教員を一箇年間收容してゐる。

以上の外、樺太廳高等女學校補習科に師範部を設け終了後は無試験檢定の上尋常科正教員の免許狀を與へ適宜任用することにしてゐる。

### 第八 交通

【道路】 本島の道路は地形上海岸線に依らなければならぬ。

三六

交



大泊高等女學校

従つて幹線道路は東西兩海岸の従貫線と之を連結してゐる横斷線等よりなつてゐる。右幹線の外に、官公署所在地、樞要町邑等を連絡する爲め幹線より分岐せる路線、農村及殖民地部落を連絡する農耕道路等がある。

【鐵道】 本島に鐵道が敷設されたのは明治三十九年で、我陸軍鐵道隊が、六箇月間に急設した楠溪町、豊原間の軍用輕便鐵道が其の始めである。

明治四十三年には、既設輕便鐵道が廢止されて大泊、豊原間に普通の鐵道を開設した。超えて四十四年には豊原、榮濱間の工事竣工し、大泊、榮濱間延長五十八哩五分が全通した。爾來著々延長されて大正十一年には小泊、川上炭山間全線一三哩四分が運轉し始めた。

三七





豊原第一小学校

三八  
 首都豊原と西海岸の要地真岡とを連絡する豊原線は全長五十一哩七分で、大正十年に起工して昭和三年に開通した。西海岸線は全長五八哩四分で、大正七年起工して大正十年に竣工した。私設鐵道の敷設許可を與へられたものは樟太鐵道株式會社及南樟鐵道株式會社の二社で、樟太線では右二社に對して地方鐵道補助法に依つて補助金を交付してゐる。

樟太鐵道株式會社は資本金壹千萬圓で、東海岸落合驛から北岸敷香までの延長一四八哩六分の工事に着手してゐるが、昭和二年には落合、知取間一〇六哩が開通した。昭和五年には全線の運轉を見ることが出来る豫定で、竣工の時は邊境附近の開発に資する所が多いであらう。

南樟鐵道株式會社は資本金百二十萬圓で新場驛から留多加ま

での延長十二哩の間で大正十五年に開通してゐる。

【航路】 本島の航路には樟太廳命令航路、逓信省命令航路、鐵道省連絡船及び社外船の四種がある。

樟太廳命令航路は内地、北海道線及沿岸線に大別してゐる。

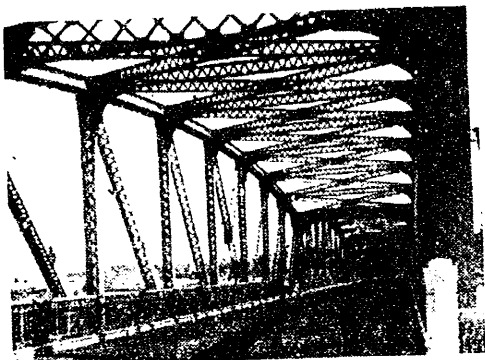
内地、北海道線は更に大阪線、敦賀線、伏木線、西海岸線、東海岸線の五種に分ける。

大阪線は、大阪から東西兩海岸に至るもので、東海岸に至るものは四月から十月まで、汽船三隻、敷香を終點として十二回、西海岸に至るものは四月から十月迄汽船三隻、惠須取を終點として十四回及汽船二隻で大阪真岡間を十四回往復する。

敦賀線は四月から十月迄、敦賀、大泊間を汽船二隻で十二回往復する。



豊原驛



大泊港の内橋

四〇

伏木線は三線ある。東海岸は四月から十月迄、汽船二隻、伏木敷香間十二回、西海岸は四月から十月迄汽船二隻、伏木、恵須取間十六回、伏木、大泊間汽船一隻、四月から十一月迄七回、西海岸線 函館及小樽を基點とする二線及稚内、本斗間の連絡からなつてゐる。

函館を基點として海馬島、本斗、真岡、泊居、恵須取等を経て安別に至るものは汽船二隻、四月から十月迄二十八回、小樽を基點とするものは汽船二隻、夏期は恵須取、冬期は泊居を基點として汽船二隻、夏期七十六回、冬期十九回往復。

稚斗連絡は汽船一隻、稚内、本斗夏期毎日、冬期は隔日運行して、樺太鐵道と鐵道省との連帶運輸をなす。

逕信省命令航路は汽船三隻、函館を基點として青森、小樽、

大泊、真岡間を四月から十一月迄四十八回、十二月から三月迄二十四回往復、樺太鐵道と鐵道省線との連帶運輸をなす。

鐵道省連絡船は大正十二年北海道宗谷本線の全通を機として鐵道省が汽船二隻を配して、稚内、大泊間を夏期は毎日、冬期は隔日に兩地を發航するもので、同線は本島海運交通史上に一大變改を與へた。

社外線は不定期船で、多くは夏期中木材或は特殊物産の運送を目的とするもので、内部の開發に伴つて其の出入年々頻繁となつて來た。

### 第九 警 察

〔警察機關〕 現在警察部に警務課、保安課、高等警察課、特別高等警察課、及警察官練習所の四課一所を置いてゐる。

全島に於ける警察署は十二箇所、警部補派出所三箇所、巡查部長派出所二十四箇所、巡查派出所十三箇所、巡查駐在所五十六箇所にしてゐる。職員数は警視三名、警部十四名、警部補十九名、巡查部長七十三名、巡

警 察

二百二十三名で内國地警備員五十名である。然し拓殖事業の振興に伴つて漸次戸口増加し、其區域も擴大し且つ住民の多くは内地各府縣からの移住民である爲に人情風俗を異にし、又交通機關の設備が發達の途上にある現状を以てして満足なる治安、取締は一難事であるが一方警察制度着々整備の緒につき又不斷の研究によつて其充實改革を期してゐる。現在巡查一人當り面積は約七方里で、人口は七二六人である。

【醫事衛生】衛生施設が漸次備はるに従つて衛生思想も亦次第に普及發達し、現今では市街地に於ては先づ意を強くするに足るものがある。然し村落に於ては、未だ遺憾の點多く設備の改善へ努力してゐる。なほ本島に於てはコレラ、ペストは一度會て發生した事がない。



四二

開 校 の 時

醫療機關としては豊原、大泊、眞岡に離立病院を設置してゐる外各地に私立病院があつて、醫師一九四名、歯科醫六四名、藥劑師三四名、藥局二八がある。人口の比率からすれば、内地及各植民地に比較して寧ろ優つてゐるけれども、本島は人口に比して面積が大である爲に、目下之が充實の計劃中である。

以上の外豊原、大泊、眞岡の離立病院に於て助産婦、看護婦等を養成してゐる。

第十 土 人

【生活狀態】我が南樺太に在住する所謂土人はアイヌ、ニクアン、オロツコ、サンダー及キーリンの五種族を云つてゐる。彼等は從順で文化程度極めて低く、一般社會の競争場裡に於ては到底互立が出来ないのて農耕、漁業其の他に關して特殊の制度を設けて其の生活を保護してゐる。尙農業を奨励し又自治思想を發はしめ子弟に教育を授けて彼等の風習を改めざる範圍に於て自由に文明の惠澤に浴せしめてゐる。其の結果土人の優秀なる者は農耕の方法を習得して馬鈴薯や根菜の類を栽培して良成績を擧げてゐる。又冬期は伐木製材及運搬等に從事してゐるものもある。一般に漸次獨立自營の域に進んでゐるが概して貯蓄心なく金錢を

土 人

四三

得れば直に酒食に費し又は不用の物品を購入する等將來を慮ふの念が全くない。

【教育】土人教育所は明治四十二年東西兩海岸のアイヌ族集團部落各一個所に始めて設置し其の子弟を收容して之を教育する外、尙地理的其の他の關係上之を公立小學校に委託して教育する等指導に努めて來たが未だ充分ではなかつた爲に大正十三年四月部落を適宜合併すると共に教育所も之を五箇所に定めて其の内容は公立學校と大差なく教科書は小學校と同一である。

### 樺太視察便覽

#### 大泊支廳

##### 一、管内概況

大泊支廳は樺太の最南端に位し宗谷海峡を隔て、遙かに北海道と相對してゐる。其の廣袤三百方里餘て邦領樺太全面積の八分の一に當り、大泊、長濱、富内及留多加の四郡大泊留多加の二町及千歲、深海、長濱、遠洞、知床、富内、三郷、能登呂の八ヶ村に區劃せられてゐる。

##### 一、觀察個所及其の梗概

(イ) 表忠碑 大泊町宇楠溪町中央高地 楠溪町驛より約三丁

日露戰役に際して、本島占領の偉功を樹てた幾多將卒の英靈を祭祀し、併せて是等將卒の遺骨を埋没した處であつて、明治四十年十一月建立せられたのである。

樺太視察便覽

長くも今上陛下未だ東宮殿下に在らせられた頃本島行啓の折親しく玉歩を碑前に御進め遊ばされ、悉くも御會釋を賜ふ。毎年七月十二日を卜して招魂祭を舉行する例になつてゐる。全島民の尊崇を儲める所であつて、本島唯一の山姥ある記念碑である。

(ロ) 樺太製菓株式會社 大泊町宇山下町畑 楠溪町驛より約六町(約十分)

大正七年合資會社として創設後、組織を變更して株式會社と爲した。(大正十年)本島産ライ麥、馬鈴薯を原料として酒精を製造し、本島特有の「フレツプ」果實を以て「フレツプワイン」或は「フレツプソーダ」を醸造して産業の振興に努力してゐる。年産額約五十四萬圓に達す。

(ハ) 樺太寒天合資會社第一工場 (大泊町宇宮士) 楠溪町驛より約二十四町自動車にて約十五分

大正九年七月長濱郡遠田湖に産する石花菜に似た海藻伊谷草の採取權を得て合資會社を組織し、寒天製造を開始した。本製品は其の質優良であつて、今日に於ては内外各地の製菓用其の他に多大の需要を喚起し相當多額の輸出を示してゐる。年産額約十萬斤二十萬圓に達す。

(ニ) 樺太廳視測所 大泊町中央高地 楠溪町驛約四町

當觀測所は明治三十八年十月十日の創立に係り當初は第十臨時觀測所と稱へ中央氣象臺所屬であつたが、明治四十年四月樺太廳の開廳と共に同廳所管に移され前來の觀測を繼續してゐる。歌香、眞岡、落合、本斗、安別に支所を有し西能登呂、東白浦、富内、久春内、北名好、海馬島の各地には簡易觀測所を設けてゐる。東經百四十二度四十六分、北緯四十六度三十九分に位し、海上面の高さ三十六米三を有し中央高地一帯及鈴谷留多加原野亞庭灣の北部を窺むことを得て眺望絶佳である。

(ホ) 王子製紙株式會社バルブ工場 大泊町宇王子 大泊驛より約六町(自動車にて約三分)

本工場は當初三井物産株式會社に於て、樺太紙料工場として操業すべく大正三年十一月工場完成し、同年十二月操業に着手したが、職工等作業に馴れず、成績も亦良好といふ譯には行かなかつた。其の後鋭意研究の結果大正四年四月に至り始めて瑞典製品に劣らないバルブを製造し得る様になつたのである。其の依幾多の曲折を経て大正十年八月王子製紙株式會社に依つて買収せられ今日に及んでゐる。



樺太視察便覽

四八

(年産額一萬二千六百八十一噸價格約百八十五萬五千圓従業員約三百四十人)

(ハ) 亞庭神社 (大泊驛より約八町)

大國主命、事代主命、市杵島姫命、御食津神、磐田別尊の五柱の神を祭祀し奉る。例祭は毎年八月十日で股賑を極める。

(ト) 南樺公園 大泊町字王子岡割外 大泊驛より約七町

王子製紙株式会社敷地内に在る。丘上より展望すれば、大泊市街及亞庭灣を一眸の中に収めることが出来る。

大正十四年八月畏くも今上陛下攝政宮の御當時本島に行啓遊ばされた時、本公園に御展望所を設け奉り御展望あらせらる。

(チ) 神樂ヶ丘 大泊町字神樂ヶ丘 大泊驛より約十町

行樂の地として本丘に軟草を踏み、行脚を開いて一日の清遊をなすものが甚だ多い。大泊町當局は本丘を公園に開發すべく計畫を樹て、之が進捗に努力してゐる。

(リ) 樺太冷凍株式会社 大泊町字船見町海岸埋立地 大泊驛より約十町

當會社は、大正十四年資本金五十萬圓を以て創立し、鯨、鱈、鮭、鯖等の冷凍事業を興し、其の事業成績も亦相當に擧つてゐる。

冷蔵作業は毎年五月以降の漁期中であるから、視察時期は五月以後が好い。

(ヌ) 大北産業株式會社樺太養狐場 大泊郡千歲村南貝塚 貝塚驛より約二十町(徒歩約三十分)

本養狐場は大正七年創設せられ種狐は北米合衆國カナダ産の移入銀黒狐である。目下種狐三百餘頭を飼育して居る。

視察期は一月より四月迄は交尾分産期の爲縦覽拒絶となつてゐるから七月以後が最も好い。

樺太視察便覽

四九

(ル) 日露樟太遠征軍上陸記念碑 大泊郡深海村女麗 大泊驛より陸路三里

本記念碑所在地は明治三十七年露國と國交斷絶し干戈を交へるに至るや、獨立第十三師團長原口兼濟中將の率ゆる忠誠比類なき將卒を分乗せる十三隻の運送船四十九隻の艦隊に護衛せられ、明治三十八年七月七日午後一時三十分其の南軍竹内旅團が始めて上陸した地點であつて、此の戦跡を長く保存し、本島領有の第一歩を記念せんが爲地元有志相謀り、全島的に淨財を募り大正十五年七月記念碑の竣工を見た古跡である。大泊港より發動機船の便(自五月)あるが定期的のものではない。往復の賃銀壹圓六十錢二時間を要する。又陸行徒歩とすれば約三時間かゝる。

(ヲ) 富内湖

富内郡富内村自大泊町富内村に至る陸路十六里二日を要す。大泊驛より豊南驛に下車同所より自動車にて二時間にて達す。

本湖は巖蒼とした山嶽或は湖畔に迫り、或は遠く開き風光又明媚で天然の大公園を形成し、時に扁舟を湖上に漂はすれば湖上に喜々として遊ぶ水鳥専らいて飛翔し、又銀鱗偶々靜寂を破つて水面に跳る等まことに仙境に遊ぶ様な感がある。従つて將來は本島内外人士の避暑地として調はれる様になるであらう。

(ワ) 江ノ浦濱路海岸

大泊を基點とする泊祭本線新場驛より南樺鐵道に乗換へ濱路驛に下車して樟太一大漁場として有名な濱路海岸に遊ぶ。四月末より十一月月上旬迄鱈の漁獲あり。夏季は殊に鮭、鱒群來し壯觀である。其の他夏季干潮の際には北奇貝の採取等夏の遊園地として好適である。停車場を去る南西の二町位の所に沼がある。半鹹水であつて面積十五萬餘坪附近に「ナ、カマド」生ひ茂り、秋季紅葉して風光誠に絶佳である。殊に昨年小樽新聞社主催の本島八景の一に選定せられた所である。濱路小學校附近初夏の候鈴蘭の花美しく咲亂れ、秋季には樟太特産の「フレッツ」紅實を結び美麗の觀を呈する。

一、小原、大豊豊榮の農村

留多加驛より徒歩小原迄一里五町 大豊迄四里半、豊榮迄七里半(自動車の便あり)何れも本島有數の大農耕地として知られてゐる。主として野菜蕎麥馬鈴薯等を産し、甘藷の試作も行つてゐる。農家戸數小原

樟太視察便覽

樟太観察便覧

六十二戸、大豊百五十五戸、南北豊榮二百四十五戸である。地味も肥沃であつて年を追ふて移住する者少くない。

備考

一、特産品

- (イ) フツフ酒 一本 一圓十錢 四合瓶
- 特 三圓五十錢 同
- (ロ) ウチスキ 一本上 二 一圓 同 (製造發賣所製菓會社)
- 並 一圓三十錢 同
- 上等並等品は二合瓶、一合瓶あり。
- (ハ) フレツヅ餅 一瓶 六十錢 (大泊 村山菓子店)
- (ニ) フレツヅ餅 一箱 八十錢 (大泊 片川商店)
- (ホ) 帆立貝柱之箱漬 一罐 一圓三十錢 (大泊 片川商店)

二、旅館二十六軒あり

宿泊料は一泊四圓、三圓五十錢、三圓  
北海屋本店は(五圓五十錢、七圓、十圓)

三、自動車

貸切自動車は一時間一人四圓、町内隨所に行くことを得  
乗合自動車は町内一回片道十錢にして榮町、大通、榮町、本通、本町大通、楠溪町大通を區間とするものなれば、如何なる場所にも隨時乗降するの便あり。

豊原支廳

管内概況

本島の中央部を占め二郡六ヶ町村より成る。東は「オホツク」海に南は大泊、留多加の二郡、西は眞岡、  
樟太観察便覧





樟太視察便覽

五四

野田の二郡北は元泊郡に接す。管内を内淵鈴谷の二大川貫流して、廣漠たる沃野を成してゐる。面積約三百八方里であつて、邦領全樟太面積の約一割三分に當り、東西二十里、南北三十三里に亘り人口五萬二千六百七十五、之を其の面積に比較すれば甚だ稀薄であるが本島の中樞部に在る關係上教育、産業其の他相當見るべきものがある。且つ年と共に發達の傾向を示してゐる。

觀察個所及位置其の他

豊原町 戸教五、七三〇 (昭和四年末現在)  
人口二五、九八七

樟太廳を始め各官衙學校の所在地であつて、本島第一の平原たる鈴谷原野の中央に位し、市街は地味肥沃なる植民適地を以て圍繞せられ、東西十三町南北十四町に及ぶ。大體に於て明治三十九年五月より同九月に至る間測量したものであつて、東西南北の縱横に十五間幅の大道を設け、十間道路を以て、之を六十間四方の區劃とし、更に其の中央には八間道路を設け之を小區に分つてゐる。市街中最も繁華なのは大通及西一條通で、商店・工場・旅館・旅亭・劇場・銀行・會社等軒を連ね、樟太廳を始め諸官衙・學校

住宅等は主に東一條以東に在る。鐵道本線は此の地を過ぎて東海岸築濱に至り、東西樟太を連結する豊原鐵道の通ぜられてから島内交通の集軸を占めてゐる。

本豊原町に存する官衙學校其の他を挙げれば次の如くである。

官公衙

樟太廳・樟太廳鐵道事務所・豊原支廳・豊原郵便局・豊原林務署・豊原町役場・度量衡所・豊原醫院・豊原警察署・樟太地方裁判所・豊原區裁判所・博物館・專賣局出張所・札幌刑務所樟太支所・西一條郵便局・商工會議所

學校

豊原中學校・豊原女學校・小學校三校

主なる銀行

北海道拓殖銀行豊原支店・樟太日々新聞社・王子製紙樟太分社豊原工場・樟太電氣株式會社

交通機關

自動車 市内五十錢 借切一時間約四圓  
乗合馬車 市内三十錢 舊市街踏切以上三十五錢

樟太視察便覽

五五

樺太視察便覽

夜十二時以後及降雨の際は貸銀割増

特産品

- (イ) 富貴漬 一罐 七十錢以上
- (ロ) フレック餅 一箱 八十錢
- (ハ) 葎ジャム 一罐 四十五錢 フレックジャム 三十五錢
- (ニ) ベター 一個 九十錢以上

(イ) 官幣大社樺太神社 豊原驛より東に約二十町自警車五十錢馬車四十錢

皇國の極北樺太を安らげ鎮護し給ふ

樺太神社は市街の東方旭ヶ丘に鎮座在します。祭神は大國魂尊、大己貴命、少彦名命の三神一座である。社殿は明治四十二年の創建に係り、翌四十三年八月鎮座式を執行し、毎年八月二十三日を以て大祭が行はれる例になつてゐる。

神燈幾十枚宮柱太しく敬神まびて社殿の莊嚴なる神威自ら身に迫る様な感じがする。境内亦閑静閑雅、眺望絶佳、鈴谷平原一體を一眸の中に収む。豊原市街は歴々として指呼の間に在る。

(ロ) 縣社豊原神社 豊原驛より北へ十二町自動車馬車の便あり

市街の北方北豊原に鎮座在します。明治四十二年建立せられ、天照皇神、豊受大神、明治天皇、昭憲皇太后の四神三座を祀る。昭和三年十一月御大典に際し縣社に列格せられ遠近の尊崇が厚い。

境内に明治三十八年七月本島占領の際戦死傷病死者の英靈を祭祀する樺太招魂社がある。

(ハ) 樺太廳博物館 市内東五條南一丁目 豊原驛より順路十三町自動車五十錢馬車三十錢

明治三十九年五月樺太民政署に於て植物調査を遂げ、樺太廳設置と共に數年間に亘つて動物調査を行ひ、其の標本を樺太廳の一室に保管した。越えて明治四十二年島内の農、水、林、礦産藥的標本を蒐集すると共に土人の使用してゐた器具等をも蒐めて陳列したが、未だに公開觀覽せしめるには至らなかつたが漸次標本類の蒐集せられるもの多數にのぼるに及び大正六年舊樺太駐屯軍司令官舎に陳列して公開

樺太視察便覽

樟太視察便覽

五八

し、大正十一年には内容も漸く備はつたので、樟太視察博物館規定を設け、五月より十月に至る間開館し、本島唯一の観覧施設たらしめたのである。爾來觀覽者年と共に増加し昭和二年には植物、動物、水産、林産、農産、礦産、土俗及歴史参考品等の各部を設け整理改革して内容の充實を計り、陳列品は殆んど本島特有のもの計りで學術上の好参考資料たることを得ると同時に本島の事情を知るため視察者の見逃すことの出来ない施設の一である。開館は毎年四月一日より十月末日迄であつて昭和四年度の觀覽者總數は二萬人に達せんとする有様である。

(ニ) 王子製紙株式會社樟太分社豊原工場 豊原驛より北へ十五町自動車の便あり(五十錢)

市街の北端豊原西線に在る。工場敷地四十一萬餘坪原動力六千七百七十馬力、汽力二千五百三十馬力を使用し規模も頗る大きい。蝦夷松、根松等の針葉樹を原料とし、硫酸酸パルプ、包装紙を製造し、其の生産年額三萬五千九百九十五噸、價格五百四十四萬九千二百八圓を算す。

豊北村

(イ) 小沼中央試験所及其の他 豊原驛より六哩六分三等汽車賃二十八錢

昭和四年九月従来の農事試験場並に水産試験場の兩機關を廢止すると共に、小沼に中央試験所を創設し、基本産業の開發を興し、時代の趨勢に順應し、植民地經營に對する恒久不變の業地を培養し、以て島運進展に貢獻する所あらんとするものである。今其の事業の概目を擧ぐれば次の如くである。

- 一、農業畜産、林業及水産に關する研究調査試験分析、鑑定講習及講話
- 二、種子、種畜、種禽種卵其の他の研究調査又は試験の結果に因る物料等の處理、育成、製造、配付貸付、

毎年六七月より九月迄の間は視察するに最も好季節であつて新穀の間に牛羊の遊息する情景はさながら一幅の畫圖である。

先づ小沼驛に下車中央試験所視察の上小沼部落に點在する殘留外人(領有以前より居住し、殆んど我が國に歸化せると同様)の生活狀態を調べ名物露助パンに舌鼓を打ち更に養狐場(近年民間の飼養者増加)及養鹿場を視察するのが宜い。

樟太視察便覽

五九

(ロ) 川上温泉 豊原驛より北二つ目の驛小沼に下車川上線に乗換へ川上驛に下車川上線の北一里

名は温泉であるけれども、其の質冷泉であつて、鹽化ナトリウムを多量に含有し、冷性から来る諸症に効能ありと傳へられてゐる。宿泊の便利があるから、春秋相當の浴客がある。(豊原驛より五十六錢、入浴料五錢一泊二圓)

(ハ) 川上炭 鎮

豊原を去ること二十哩、大泊より四十五哩の地點に在つて、樟太臨鐵道本線小沼驛より分岐する樟太臨鐵道川上線の終點である。

鐵道は鈴谷川の上流地方より内淵川に沿ひ、其の上流に延びる廣大なる地域に亘り其の延長約三里半に達し、本局に於ける最も主要なる中部炭田中に在つて所謂内淵炭田の南端に位し、三井鐵山株式會社の所有に屬してゐる。

地質は下部第三紀層で砂岩、頁岩、礫岩の互層より成り合炭層は厚さ約二千尺、其の間判明してゐる炭層は總て二十五層ある。是等の炭層中主要なるものを下層より上層に向ひ順次一番乃至十四番層と稱し此の内開坑せるものは一、二、四、七、八、九、十、十四番層であるが現在は七、十、十四番層の三層

を採行してゐるに過ぎない。

地勢は南に高く北に従つて順次低下し、炭層露頭の最高所は海拔約一千二百尺に達してゐる。

當鐵道は封鎖區域であつたが、大正二年五月二十八日福岡縣 鐵道内保身之が探堀の競争入札に落札し其の後東京岩崎幸次郎及愛知縣櫻井貞次郎を経て大正五年三月二十日現鐵業權者三井鐵山株式會社に探堀權を移轉せられたもので其れから今日に及んでゐる。昭和四年の出炭量は二十一萬二千八百八十八噸であつて本局全出炭量の約三分の一を占めてゐる。

炭質は何れも漆黑で光澤を有し、大體に於て不粘結性で堅く、灰分少く發熱量七千カロリ内外を有し、所謂牙粉炭として歡迎せられ汽車用に供せられる外家庭として最も好適である。

現今の販路は島内鐵道沿線に止まるも目下同様に於て旅行中の大泊港埠頭石炭積込設備の完成と共に島外移出も可能であり又島内開拓の進展に伴ひ將來數十萬噸の年産を見るに至るだらう。

落合町



東海岸榮濱の稍南に位し、泊榮線沿線の要地であつて、樟太鐵道株式會社の經營する樟太鐵道は此の地點より起り、東海岸を長驅して知取まで延びてゐる。元ガルクノウラスコエと稱へ十數個の一寒村に過ぎなかつたが、大正七年製紙工場が設置せられてから、急激な發展振りを示し、數年ならずして市街地が出来上つてしまつた。且つ附近に肥沃なる農耕適地と奥地に豊富なる炭田を擁するのであるから之が開墾と相俟つて、將來益々發展するだらう。落合町役場、富士製紙株式會社落合工場、其の他新聞社、會社、工場等がある。

富士製紙株式會社落合工場 落合驛より北へ十町馬車自動車の便あり

大正四年日本化學紙料株式會社の創立され同七年大宇落合に工場が設けられて後十一年富士製紙株式會社に合併して専ら「サルファイトバルブ」を生産してゐたのであるが、其の後事業を擴張して「クラフト」紙の製造に着手し目下盛んに生産してゐる。生産額二萬四千四百噸價格三百二十七萬九千四百十圓に達してゐる。

榮濱

(イ) 蟹籠詰製造工場 榮濱驛より南へ十三町

樟太水産株式會社の經營に係り生産高一日約千個價格四百圓營業期間は毎年四月より十一月末迄であつて、水産製造品としては蟹籠詰、鱈、鮭の煙製等である。

(ロ) 榮濱物産陳列場 榮濱驛より北へ二町

村督であつて主として「アイヌ」族の古代使用してゐた石器、土器、其の他土人使用品を蒐めてゐる。尙管内水産物、林産農産品等をも陳列し一般の觀覽に供してゐる。

(ハ) 白濱土人部落 榮濱市街より歩行六里鐵道に依るときは落合

經由白濱驛まで約二時間半を要す

大正十年豊原支廳管内に散在してゐた「アイヌ」族を此所に集め、土人教育所及白濱振興會を設立して蒙昧な土人の訓育、啓蒙並保護、誘導に努めてゐる。此の結果漸次本邦文化に慣れ二十四五歳位迄の者は大部分日本文字を解し舊來の惡習は日に月に改善せられつゝある。現在戸數八十戸人口三百十人、就



樺太視察便覽

六四

學兒童四十五名に達してゐる。養性温順にして多くは漁業に従事し冬期間は伐採事業に従ふ。

白縫村

保呂試験林 保呂驛の西方約三町

大正十四年秋より播種植樹の試験を開始しつゝある。本春中央試験所設置せられ林業部の制定せられると共に本試験林は林業部の管理に屬し林業の實地試験を行ふところとなり、其の運用に依つて本島林業の進展に貢献せんとしつゝある。視察時期は六月より十月迄が良い。

元泊支廳

管内概況

元泊郡は南樺太東海岸の中部に位し、帆寄、元泊の二村並に知取町に分たれ、總面積は二百二方里餘で

ある。

東方は渺茫たるオホツク海に面し、南方は羅川分水嶺を以て榮濱郡に、西方は中央分水嶺を界として鶴城郡に北方は大鶉取地北端より分水嶺に沿ひ、新開嶽に連繫する一線を以て釧路郡に接す。南部に突阻山、中部は東幌内保稔保山、北部は知取山を巡る山丘連亘起伏して平坦の地に乏しく、只諸川の流域又は海岸に小平地を有してゐる。

現住人口は其の大部分内地人であつて、極めて少數の朝鮮人、土人外國人あり。總戸口五千七十三戸二萬三千九十三人である。管内生産業の主なるものは漁業、林業、工業で、農業、鑛業之に亞ぐ。

視察箇所及位置其他

(イ) 突阻山 白石驛より三里三十町山麓まで三時間にて達す

海拔六百七米奇峰毅然として連山を壓す。山の中腹より頂上に至る間一面の寒帯植物繁茂し、七月上

樺太視察便覽

六五

旬より八月中旬頃迄の間百花撩亂所謂御花畑を現出し眞に偉觀を呈する。山麓より六合目頃迄は大小の瀧水瀑を立て奇岩を縫ふて落下する。絶頂より視野數里の展望を恣にすることを得る。

(ロ) 馬群潭櫻山 馬群潭驛の西北約一里三十町

全山一帶樺太深山櫻密生し、大和櫻に比べることは勿論出来なけれども、草花の乏しい樺太に有つては觀賞に値する。山道は至つて緩坂であるから老幼婦女子でも容易に登ることが出来る。觀櫻季節は毎年六月二十日頃が好適である。

(ハ) 元泊船入湖 元泊驛より約十三町の南方に位す

天然澁淵を形成する元泊港は古くから好鑛地として知られ、大正九年樺太廳は巨額を投じ、完全な船入湖を設置して以來、大小船の出入多く東海岸に於ける好鑛地である。

(ニ) 富士製紙株式會社知取工場 知取驛より西北十町自動車馬車の便あり

本工場は大正十三年五月起工し、同十四年六月大山火の爲類焼したが直に再工事に着手し、翌十五年十二月操業を開始したものであつて、製紙工場として東洋一の稱がある。  
三百六十餘尺の大煙突は天を摩して雲表に聳へ年約六十萬石の原木を消化し、新聞紙マニラボール、乾燥パルプ、模造紙等三萬七千九百十六噸(八百三十三萬八千三十一圓)を製造する能力を有する。

(ホ) 知取炭鑛 知取驛の西北約十五町

鑛區は北部封鎖炭田の南端に位し、登帆炭鑛株式會社の所有であつて富士製紙株式會社知取工場の附屬炭鑛である。地質は上部第三紀層であつて現在採行してゐる炭層は三層あつて其の厚さは四尺乃至六尺に及んでゐる。炭質は不粘粘性で燃料炭に適し、本島に於ては中等炭に屬する。大正十三年五月より採炭を開始し、昭和四年の出炭量は約十二萬噸である。

(ヘ) 知取川流送の状況 知取驛より西北約八町

知取驛より生産する原木約六十萬石は五月より九月迄の間此の河川によつて流送せられるのである。

五六月頃延々數里に亘る流木水面を覆ふて流下する情況は實に壯觀である。又流送夫の膏を使用し流木を渡る機敏な動作は實に巧妙鮮かなるものがある。河口左岸には二臺の「ロツクホール」を設備す。

(ト) 遊仙閣 知取驛の西北十八町自動車馬車の便あり貨銀自動車馬車共一四

酸化水素を主成分とする噴泉湧出し、浴場及宿泊等の施設完備してゐる。(宿泊料一泊四圓)同所は知取川流域の沿岸に在つて奇岩聳立風光又絶佳である。

### 敷香支廳

#### 管内概況

敷香支廳管下は邦領樺太の北部を占め、面積八百五方里に及び、概内川域内を縦断して流域には廣大な沃野發達し、東北部の山地には森林鬱蒼として繁茂してゐる。

沿海は古來鱒鮭の漁場として知られ、夏季は温暖で冬季は快晴よく積雪農牧、林業、水産業等盛んである。沿岸、内路、敷香、敷江の四村に分れ、敷香には支廳、林務署、警察署、觀測所支所等の諸官衙がある。住民は一萬八千二百五十六人で内地人の外オロッコ、ニクブン、アイヌ等各種土人が住居してゐる。

#### 觀察個所及位置其他

(イ) 海豹島 北知床岬の南方五里の海上に在り敷香より發動機船で七時間

一に「チュレニ」島又はロツベン島と云つてゐる。「オットセイ」の保護地として世界に名高い。

「オットセイ」は夏季を本島に來り仔獸を分娩し、秋季寒冷の季節に入ると南方に去る。

島上にロツベン島と稱する島群居するもの數十萬鳴聲耳を聳せしめる。

「オットセイ」は保護條約に依つて捕獲を禁ぜられてゐる。

長さ六町幅三、四十間發爾たる岩礁で殆んど樹木は生へてゐない。

視察の時期は六七月の頃が好適である。



(ロ) 多來加湖 敷香より發動機船で約三時間

本島第一の大湖であつて、多來加湖頭に横はる。東西十里南北の廣い處四里一條の砂嘴を以て海と隔つてゐる。

フレト、ルクタマ、オツ、ケウリ等の諸川之に注ぎ、多來加川を以て海に湧水す。

湖畔處々にオロツコ族居住し、多來加川湖と連る所にアイヌ部落がある。

湖中特殊の大鱒を産す。多來加川は鱒魚の河上多く年産二萬餘頭を超え、河畔多來加部落の活計を維持するに足る。

陸路敷香支街より多來加湖に沿ひ東方五里餘道路は平坦ならざれども、自動車の便がある。冬季は馬糞大桶あり視察の時季は冬夏とも其の目的に依つて選ぶ方がよい。

(ハ) 國境 北緯五十度の國境線は敷香内路より軍用道路を北すること各二十七里の所に在り

國境附近は蒼鬱たる密林至ひ繁つて殆んど窮まる處を知らぬと云ふ原始的の狀態にある。此の天をも

摩する慘々たる密林は北緯五十度線に當る處に於て伐り拂はれ東西に長く一條の境界は劃定せられ、其の要所所には石造の國境標が建てられ、邦領に面した石表には十六葉菊花の御紋章が盛り上がる様に彫られてゐる。軍用修築完成すれば自動車を通じることが出来るけれども、現今は保惠迄十里の間自動車を通ずるのみである。冬は馴鹿糞の便がある。

内路敷香起點として上敷香、保惠、氣屯、半田に各驛選があつて、宿泊設備を有し、距離各六里乃至八里往復徒歩で五日を要する。

自動車は一里一圓見當馬は一日十圓位である。

(ニ) ムイカ孵化場 幌内川支流ムイカ川の合流點約一里の川上に在り

從來鮭鱒の湖上移しく、天然産床として有名であつたが樺太廳に於て、大規模の孵化場を設置し昭和四年より其の事業を營んでゐる。

(ホ) オクツミ土人部落 敷香市街地より約半里

樺太視察便覽

樺太視察便覧

七二

ニクアン、オロツコ土人を集合せしめ、部落として教化の實を擧げんが爲め、昭和元年其の實行に着手した。現在定住の者十數戸ある。  
數香市街より船を賃して往復約二時間で視察することが出来る。

(ホ) ツンドラ (凍土) 地帯

幌内川流域に發達せる茫茫たる地帯である。數香市街より舟を僱ひ約一里半幌内川を溯航すれば、此景観に接することが出来る。

(ヘ) 幌内川

露領サガレンに源を發し多米加灣に注ぐ長さ七十餘里樺太第一の大河である。  
河畔ツンドラが發達してゐるから河水常に黃濁してゐる。鱒鮭多く溯上し、又其の葦葎の溼である。  
又流域一帯森林繁茂し、地味肥沃なる所が多いから漸次開拓せらるゝに伴ひ本河の利用益々盛んとなり産業上逸す可からざる價値を有する。

泊居支廳

管内概況

泊居支廳管内は面積四百四十七方里人口三萬九千六百三十三人で大略樺太全島の五分一、一方里約八十三人の密度に當り、沿岸七十四里に亘つて鱒、鱈等の良漁場を有し、陸は各河川に沿ひ農牧適地又多くない。農耕區數四千六百五十五戸、六千四百四十五千坪に及び、氣候概ね、本島の中位に在るも、世上或は蕭條たる本邦朔北の地として寒冷を顯微するものが多い様であるが之を歐州諸國の緯度に比較すれば大凡佛蘭西、瑞西、奧地多利、匈牙利、南露、西亞地方に該當し瑞典、挪威、丁株、獨逸地方より遙かに南方に位し優越なる地位に在り且つ沿岸一帯水流の影響に依り氣候緩和せられる許りでなく農作物の豊饒及住民の健康状態は事實に於て氣候風土の良好と、適農地たることを立證し加之尙千古斧鉞を用ひたことない森林があり、地下埋藏の礦産物があり、本管内の將來は此の自然の天恵より觀察するときには洋洋として期待すべきもの洵に尠くないのである。

樺太視察便覧

七三

観察箇所及位置其の他

(イ) 泊居町 戸数一、九四〇戸  
人口九、〇五七人

西海岸北部の要地であつて、泊居支廳の所在地である。領有當時は僅かに十數戸の一寒村であつたが近海漁業の發達と附近炭礦の採掘、工業會社の設立等によつて漸次發展の途上にあつたが、大正七年支廳の久春内から此の地に移轉してより、急激な發展をなした。然るに大正十一年十一月火災に罹り、其の主要部分を烏有に歸し、一時惨憺たる状況にあつたが住民の發奮と當局の機宜の措地とに依り災前に倍した市街を建設し面目を改むるに至つた。野田より此の地を経て久春内に至る野久鐵道は大正十四年工事に著手してから着々進行してゐるから近く完成の上は地方の開發と共に益々發展するであらう。泊居支廳の外泊居林務署、泊居郵便局、眞岡區裁判所泊居出張所、泊居町役場、公立高等女學校、樺太工業株式會社泊居工場、樺太汽船株式會社其の他新聞社、會社、工場等がある。出入港船舶頗々たり商業地として管内隨一の繁盛を示し、背後奥地には安藤川大炭炭山等がある。

(ロ) 樺太工業株式會社泊居工場

本社は大正二年十二月の創立にかゝる。當地に本社を有し資本金七千萬の大會社である。本工場は當社に於ける最初の工場であつて、大正三年五月十八日工を起し、四年九月一日に至り操業を開始した。其の後歐州戰亂の影響を受けバルブの賣行旺盛んで社運隆々たるものがあつたが、大正十年二月二十二日不幸火災に見舞はれ、工場全部を烏有に歸し、一時工場の再起をさへ疑はれたが、同年十二月十五日には既に工場一部の運轉を見、翌年二月に至り全部の運轉を爲し從來の木造建築に代つて全部を鐵筋混凝土に更め、泊居に於ける一體觀を形成してゐる。昭和二年三月抄紙機一臺を増設して、包装紙の抄造を爲すに至り、更に翌年十一月には晒室を増設從來の未晒バルブに加ふるに晒バルブの抄造を爲す様になつた。

工場用地四十二萬三千坪工場建物七千二百坪工場従業員數六百十名生産額四萬噸約六百萬圓に達してゐる。主要原料使用高一ヶ年石炭約七萬噸木材約七十萬石硫黃約五千噸石灰石約六千噸を示してゐる。

(ハ) 久春内

人口二千四百三十人樺太に於て東西兩海岸に通ずる最も近き地點に在る關係上樺太開拓に於ける古い歴史を有する。元泊居支廳の所在地であつたことがある。附近には牧場地多く奥地には寶澤の大農耕地がある。東海岸真縫との國道八里有餘の間は自動車の來往頗る頻繁である。

(ニ) 來 知 志 湖 來知志河口を過る一里餘の所に在り

周回七里餘鬱蒼たる森林湖圍を繞り、白鳥時に來つて、遊泳する。冬期四ヶ月を除くの外漁舟常に絶えること無く、湖口より來知志河口に至る間は滿々たる碧水岸を添して、小舟發動機船等の往來繁く管内隨一の景勝地である。湖中には鱒、鮭、いとら其の他の雜魚シジミ貝等多く棲息する。

(ホ) 惠 須 取

惠須取市街地は近年頗る發展した新興の地で各官公署、樺太工業株式會社惠須取工場、奥地には露天堀を以て名高い太平炭山等があつて繁盛を極め、將來尙益々發展すべき地である。特に夏期に於ては船舶の寄港頻繁で實に北方股廠の樞地である。

### 眞岡支廳

#### 管内概況

眞岡支廳は眞岡野田二郡を管轄し、二町四ヶ村を包括す。南北の最長二十五里東西の最も廣い處十一里狭い處六里面積百六十一方里で、東は西樺太山脈を以て榮濱郡及豊原郡に界し南は留多加郡及本斗郡北は泊居郡に接し西は間宮海峽を隔てて露領沿海州と相對してゐる。

氣候溫和で地味肥沃魚族亦豊富である爲め夙に移住者多く交通最も至便である、本島中開拓の進歩特に著しい。

管内は眞岡を中心として沿岸十數里に亘り、人家稠比し山間に在つても數百戸の農村あり、戸數七千四百二十二戸、人口三萬六千八百四十人である。之を本島總人口二十五萬一千三百十三人に比較すれば約六分の一強を占め、又本島一方里平均人口百七人に對し二百二十九人であつて、本島中最も人口稠密な所である。



榊太視察便覽

七八

眞岡町 戸口 三〇六九戸  
人口 一四、五三一人

眞岡町は地形南北に長く、東方一帯山陵起伏し、平地に乏しく幅員甚だ狭く、唯西方のみ一衣帯水を距て、沿海州と相對してゐる。眞岡港は西海岸樞要の港灣であつて、大正十年工費二百五十萬圓を以て榊太廳に於て之が工事に着手し昭和二年九月完成し、現在は二千噸級の汽船を繋留することが出来る。

視察個所位置及其他

(イ) 榊太工業株式會社眞岡工場 眞岡町宇南濱町八丁目眞岡驛より四町

大正七年六月の創立にかゝる。同十年全焼したが十一年四月復舊工事を完成し、全部鐵筋コンクリートの大工場であつて其の規模の宏壯なること島内に名あり、最近に於ける本工場の生産高を舉げると、昭和四年に於て五千一百四十四萬六千七百七十七封度價格六百八十五萬五千二百五十一圓で、従業員七百三十一人である。

(ロ) 眞岡神社 眞岡町高臺なる山手町に鎮座す

境内の眺望秀麗なる淨地である。例祭日毎年七月十、十一日の兩日古式に依り盛大に執行し饗客雜踏を極め、稀に見るの式典である。

(ハ) 宇遠泊中央試験所支所 荒貝驛の北方一里宇遠泊河上流約半里の地點に在り

地味最も肥沃で用地約二萬一千五百三十六坪を有し、事業は主として種畜に關する試験及配付、種苗の育成等が其の主なるものであるが其の他馬匹種羊等の家畜を飼育する。

(ニ) 中央試験所樂磨水産部 樂磨驛より約十町

鹽藏庫、燻製室、冷蔵庫、漁廠、分析室等の建築物並立し、一小部落を形成してゐる。水産物の製造調査養殖及各種試験を行ふ。又水産加工品を便宜分譲する。

(三) 王子製紙株式會社野田工場 野田驛より十町

従業員二百九十三名生産額硫酸パルプ一萬七千六百三十五噸三百十萬三千七百六十圓である。

榊太視察便覽

七九

(ホ) 多爾泊土人部落 多爾泊驛より七町  
現在土人八十一戸三百四十二人居る。何れも漁業の傍ら農業を営みつゝある。尙兒童四十七人は土人  
教育所に於て教育しつゝある。

### 本斗支廳

#### 管内概況

管内は本斗郡一圓であつて、樟太の最南部に位し、氣候温暖なること樟太第一位である。現今交通大いに開け、内地より移住する者多く人口一萬六千九百九十九人産業は農業漁業林業であつて、其の年産額約三百萬圓に達す。商工業も逐年隆昌に赴き尙進境を示してゐる。尙本斗町は行政、商業及交通上の中心地を爲し繁華である。

#### 視察箇所、位置及其他

##### (イ) 本斗港 本斗驛より十町

本斗は本島領有前に有つては、土人の散在部落に過ぎなかつたが附近の林産、水産、鑛産の豊饒なること世上に知らるゝに及び急激なる發展を遂げた西海岸南部の要地であつて、西海岸鐵道は此の地を起點として北迄し内地との交通は繩斗連絡に依つて行はれてゐる樟太唯一の不凍港たる天恵の地位を占めてゐる。築港は大正五年工費二百五十萬圓を以て着手し昭和元年度第一期工事を完成す。支廳の外に林務署、警察署等あり。

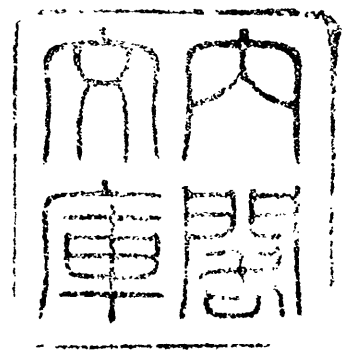
##### (ロ) 本斗公園 本斗驛より約三町

本公園は本斗市街地裏山高地であつて、眺望極めて良く春より初秋に及んで遊覽するものが多い。公園内には過ぐる大正十四年八月長くも聖上皇太子殿下に在します御御展覧在らせられ、近くは昭和四年七月伏見宮殿下の行啓御展覧あらせられた御展覧所である。

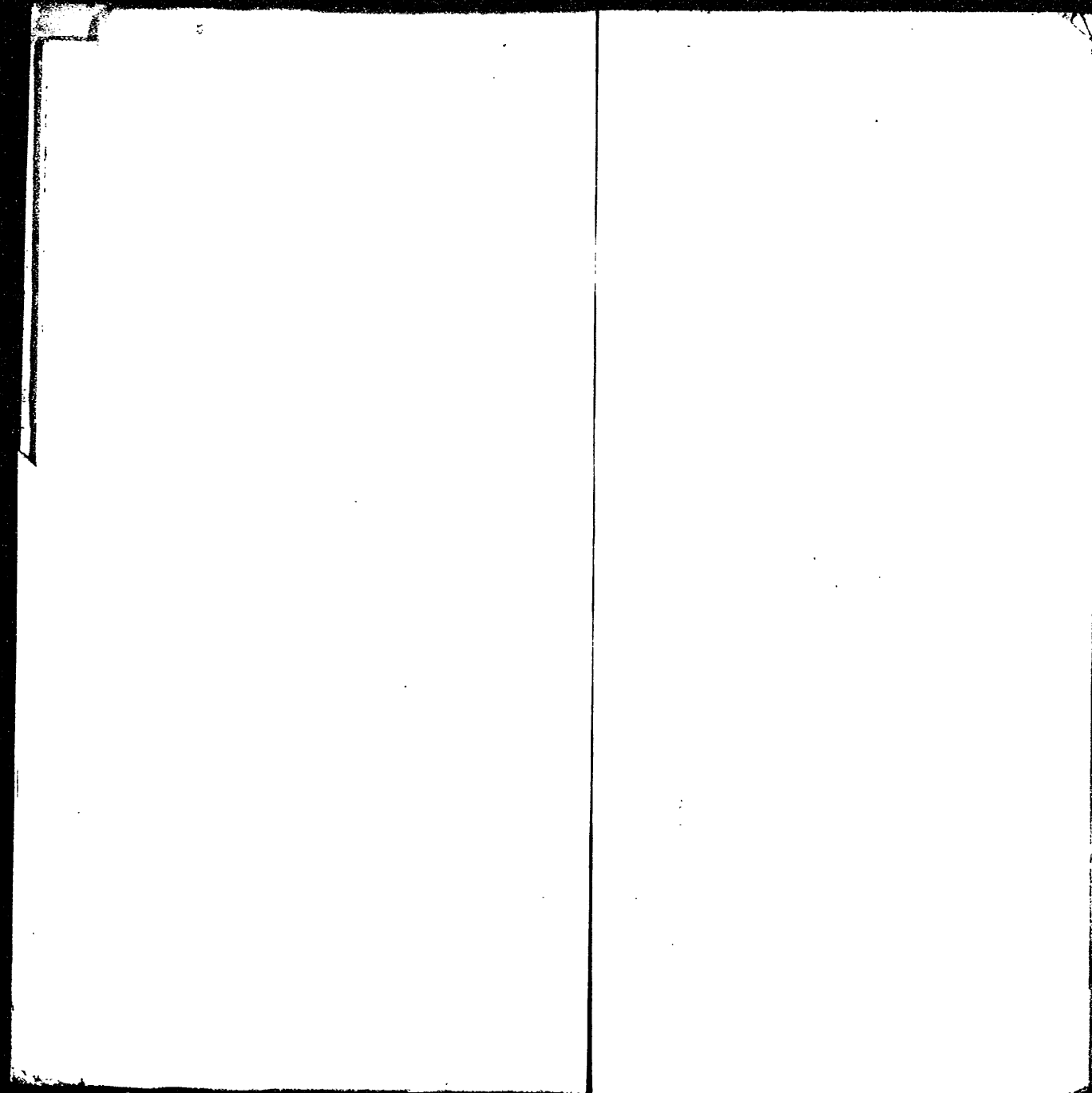
##### (ハ) 吐鯤保石油試錐場 本斗より約二十町自動車の便あり 樟太視察便覽

樺太視察便覽  
 試筆は日本石油會社の經營に據つて爲されつゝある。視察には冬季を除くの三季を可とす。尙附近に  
 は鐵泉の湧出ありて、四季浴客絶えず風景絶佳である。

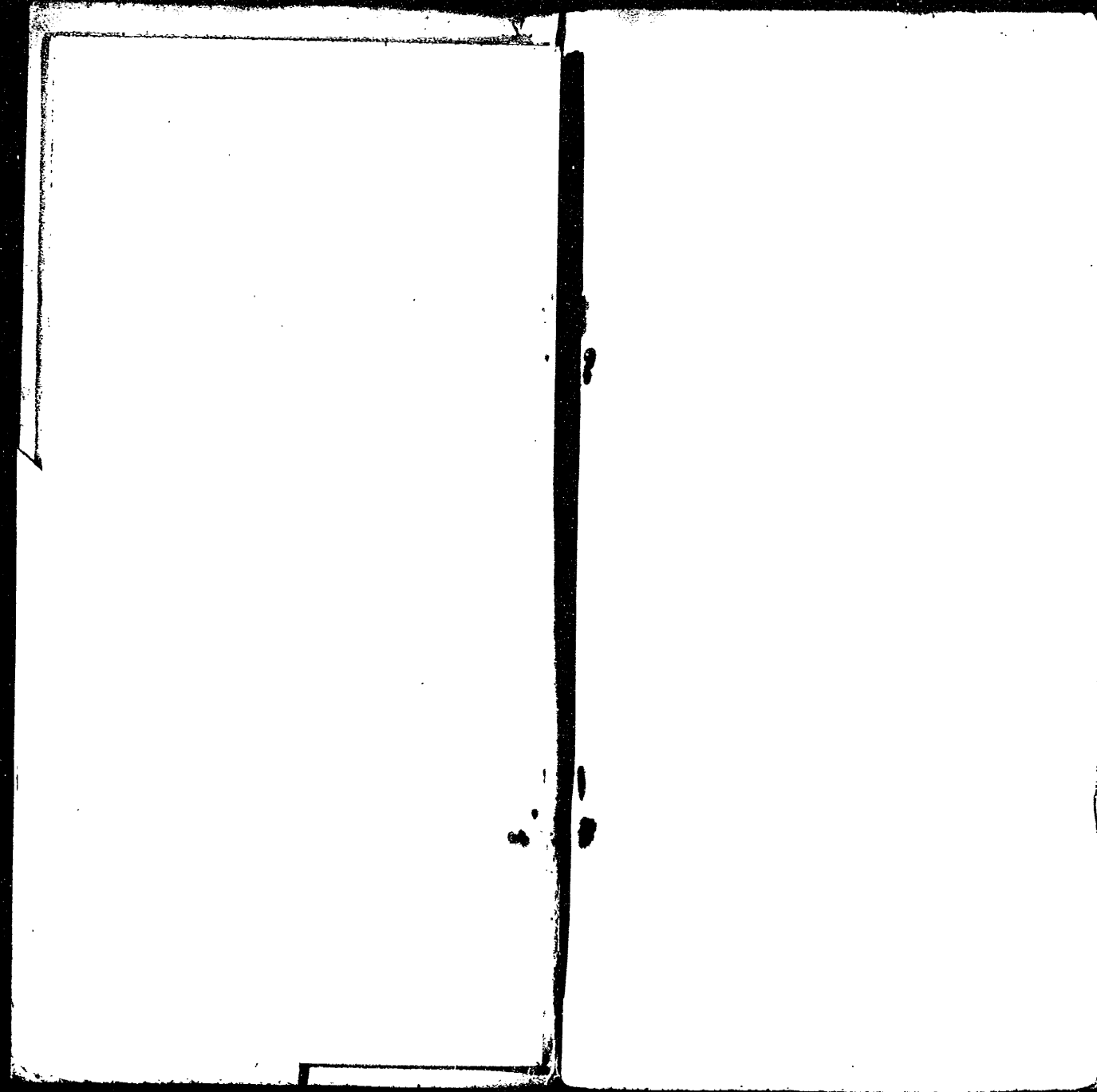
八二

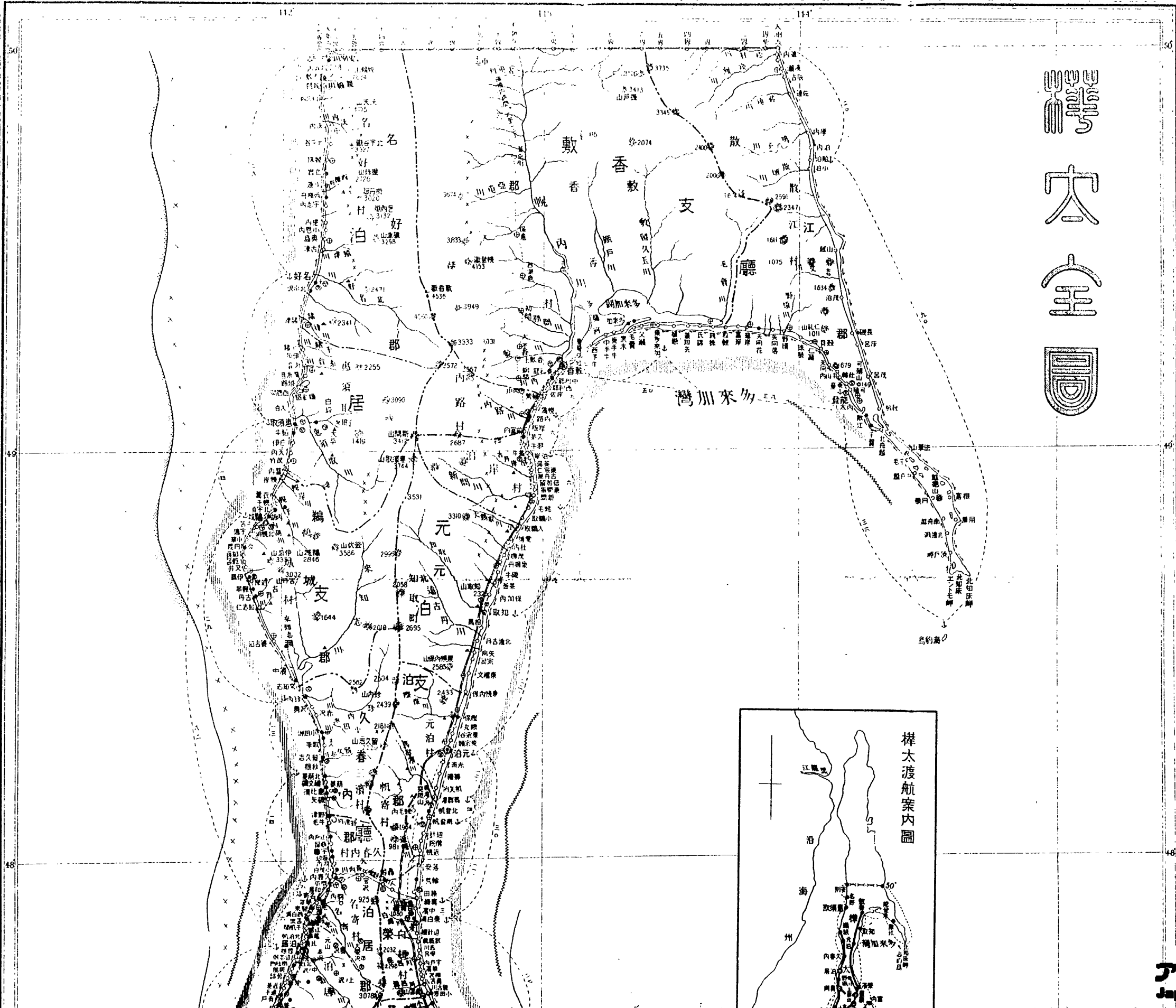


昭和五年六月廿一日印刷  
 昭和五年六月廿二日發行  
 樺 太 廳  
 東京市京橋區八丁堀三丁目三番地  
 印刷人 荒 牧 金 吾  
 東京市京橋區本湊町七番地  
 印刷所 互 光 印 刷 所

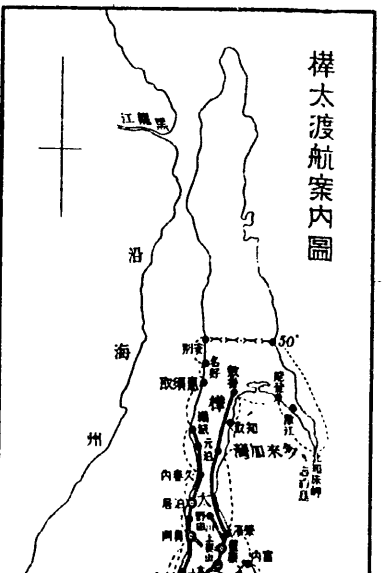


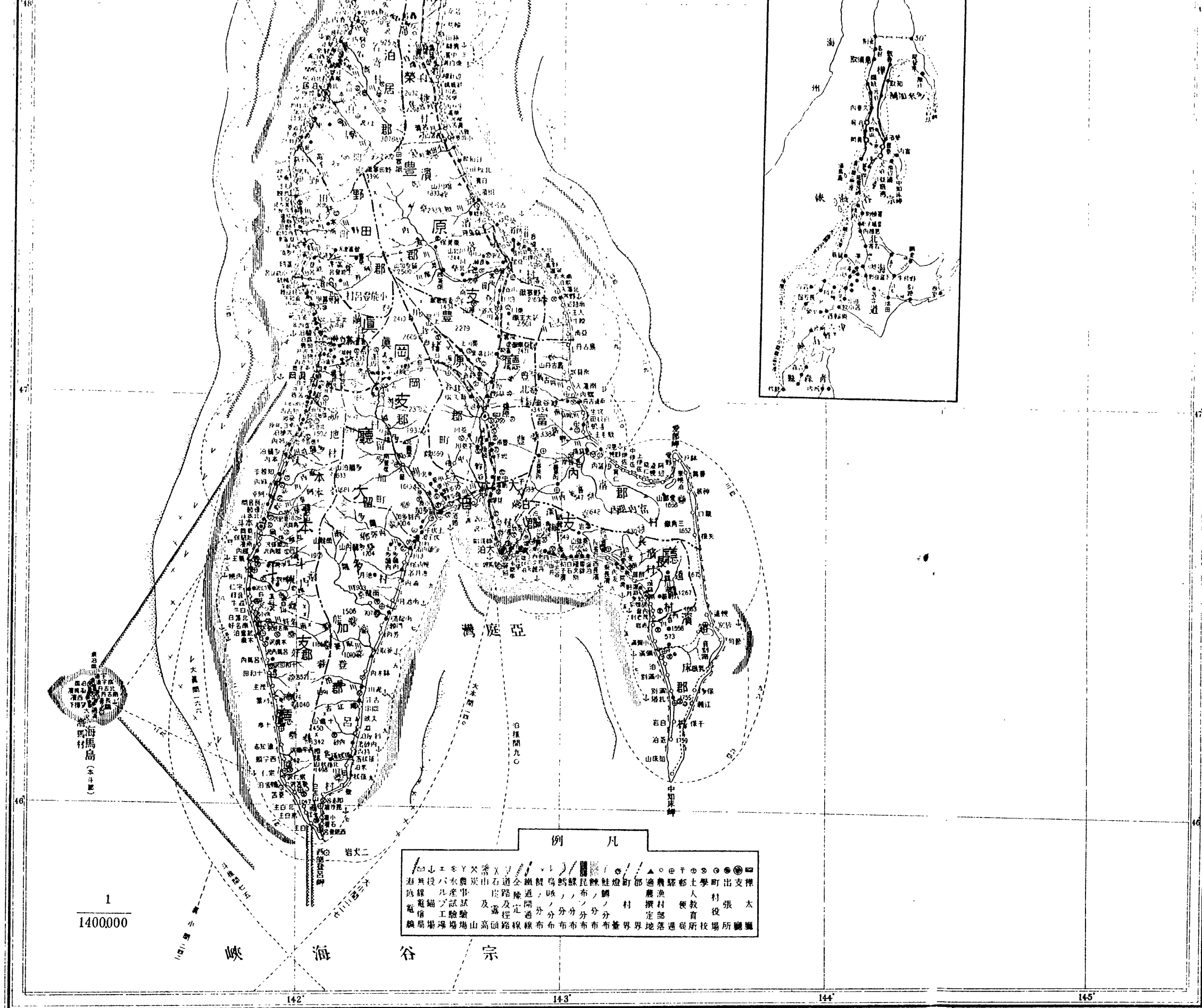






瀬田川  
大津  
全圖





裏面白紙